

「地域の面的再生への積極的な参画」の事例（全52事例）

銀行名	事例名	頁
北海道銀行	トヨタ生協「北海道物産展」出展希望者商談会の開催	1
青森銀行	(1) 地場産業の育成支援(2) 公共分野への民間資金の活用	2
みちのく銀行	農業者の法人成り支援について	3
みちのく銀行	J R東日本 常設地産品ショップ「のもの」への職員研修派遣	4
みちのく銀行	レストラン(食事会型)商談会の開催	11
岩手銀行	いわぎん次世代経営塾の開催	16
七十七銀行	自動車関連産業を中心とした進出企業および関連地元企業等への支援強化	17
七十七銀行	「営業支援部隊」の活動について	18
七十七銀行	P F I 事業に対する情報提供の取組み	19
七十七銀行	アグリビジネスへの取組み強化	20
七十七銀行	震災により影響を受けた県産品の売上回復に向けた取組みの検討	21
北都銀行	駅前活性化への寄与	24
荘内銀行	「庄内価値開発研究会」第3ステージ	25
山形銀行	<やまぎん>アグリイノベーションサポート(農業革新支援)～アグリビジネス商談会およびアグリビジネスカレッジの開催～	26
東邦銀行	「地域再生ファンド」、「資本性借入金(DDS)」の活用による事業再生支援への取組みについて	27
東邦銀行	地方自治体向けセミナーの開催等による、地域振興に向けた自治体との情報共有	28
東邦銀行	当行のネットワークや情報機能を活用した、地域の面的再生・活性化のための各種セミナーの開催	29
筑波銀行	経営相談機能強化・ビジネスマッチング	30
千葉銀行	成田山新勝寺と参道の老舗企業による街の魅力のPR活動	31
千葉銀行	千葉市との「地域経済活性化に関する連携協定」の締結	32
東京都民銀行	C S R 活動の一環による環境配慮型定期預金「ECODOMO定期預金」の取扱い	35
東京都民銀行	C S R 活動の一環による環境配慮型定期預金「花粉の少ない森づくり定期」の取扱い	36
東京都民銀行	C S R 活動の一環による環境配慮型定期預金「東京緑の定期」の取扱い	37
横浜銀行	P P P / P F I への取組	38
横浜銀行	問題解決型営業実践による地域経済活性化への取り組み	39
第四銀行	「だいし観光学校」による県内旅館の活性化支援	41
北越銀行	さまざまな地域プロジェクトへの参画による地域の面的再生を支援	42
北陸銀行	富山県との災害時等の応援に関する協定締結と、移動相談車の導入	43
北陸銀行	寄付講座への講師派遣や共同執筆テキストの出版、次世代経営者養成講座の主催等を通じた地域を担う若い世代への金融教育の普及	44
富山銀行	新通帳デザインの富山大学生コンペティション実施	45
福井銀行	福井県新補助事業「新分野展開スタートアップ支援事業」の全行取組	47
大垣共立銀行	航空機産業への参入支援	49
大垣共立銀行	地方銀行連携『地方からの贈り物』プロジェクト	54
大垣共立銀行	障がい者雇用～新たな取り組みによる地域社会への更なる貢献～	56
十六銀行	産官学連携事業による地域貢献活動	59
十六銀行	産官学連携のコーディネート	60
静岡銀行	中心市街地活性化(面的再生)支援への取組み	61
百五銀行	産官学連携で取組む企業向け技術相談会および中小企業支援ネットワーク強化事業の有効活用による新商品開発支援	62
池田泉州銀行	地元自治体との「産業連携協定」・「地域振興協定」の締結	69
南都銀行	吉野杉を使用し、東日本大震災の被災地で製造したPR用店頭配付品(ブックマーク)の採用	90
紀陽銀行	提携大学の研究シーズを地元企業で事業化に取り組む	92
但馬銀行	山陰海岸ジオパークPRイベントの実施	93
広島銀行	「瀬戸内 海の道構想」(広島県)の構想策定支援の取組み	97
阿波銀行	環境に配慮した循環型農業の実現、およびアグリビジネス進出支援への貢献	98
百十四銀行	地元の新地域資源「希少糖」を活用した地域活性化	102
伊予銀行	行政と一体となった「ものづくり支援体制」の構築	104
福岡銀行	地域完結型P P Pに向けた取組(P P Pプラットフォーム事業ほか)	110
筑邦銀行	医療の強みを生かした地域活性化への取組み	115
十八銀行	三菱長崎機工株式会社の「下水汚泥減容化技術」実証実験サポート(長崎市、当行、長崎経済研究所による「地域経済振興のための連携に関する基本協定」成果案件)	134
肥後銀行	「くまもと“食”の商談会2012」の開催	136
肥後銀行	「2012くまもと産業ビジネスフェア」の開催	137
鹿児島銀行	中心市街地活性化事業を応援する取組み	138

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 北海道銀行）

タイトル	トヨタ生協「北海道物産展」出展希望者商談会の開催
動機（経緯）	職域生協の同生協（会員数 25 万人）訪問時「13 年前から毎年 2 回北海道物産展を開催しているが、最近では出展先が固定気味。50 先程度のうち 1 割程度を入れ替えたい、小さくても無名先でも地域の特産品を紹介願いたい。」との申し出による
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・当初訪問目的は北海道の食材を職域や売り場等に納入できないかということだったが、上述申し出内容が、物産展出展を切り口としてその後ギフトや会員向け共同購入リストとして定番化の可能性があると判断したため。 ・地域振興の観点より、出展者募集に際しては当行取引先に限らず、各自治体や商工会議所からの推薦を軸に展開した。 ・首都圏や関西（大阪）商圏とも違う新たな中京圏への販路拡大、また一過性の展示会とも違う点を訴求した。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体や商工会議所の推薦先および当行各支店から 40 社の応募があり、既往出展先との重複等調整のうえ、2 日間の商談会には 34 社が出席。1 社 30 分ずつ直接交渉を行った。 ・結果として新規出展 8 先、ギフト採用 3 先となった。特に道東オホーツクの斜里町は地域の物産を厳選した「しれとこ斜里ブランド」として出展し、「知床自然遺産」の観光とセットで売り込むため流水やクリオネを展示した。絶大な効果で来店客は次々足を留めて注目し、観光パンフレットが品切れで追加持込するなどして、物産売上面だけでなく観光 PR 面でも予想以上の成果をあげた。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 青森銀行）

タイトル	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地場産業の育成支援 (2) 公共分野への民間資金の活用
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> (1) アグリ分野への取り組み強化 (2) PFIへの取り組み強化
取組み内容	<p>【具体的取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 農業者向け専用ローンの推進 (2) 食関連業者向けセミナーの開催 (3) PFI案件の実行及びアレンジャー業務への参画
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 農業ローン「アグリパートナー」 稲作・リンゴ生産者を中心に利用者拡大。残高ベースで対前年度末比 15.8%増加。 その他、融資案件対応にあたり、事業性の判断・収支計画の策定等、畜産関連資金を中心に本部担当者により支援実施。農業関連向けの融資残高は 3.7%となったが、畜産関連は 3.9%の増加。 (2) 食関連産業向けセミナー 24年2月に「食品加工におけるリスク管理」をテーマとして開催。食品加工事業者を中心に約 60 名が参加。 (3) PFI 実行案件 2 件/6.2 億円、案件参加 1 件/7.8 億円（契約額） 青森県主催研究会への参加

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 みちのく銀行）

タイトル	農業者の法人成り支援について
動機（経緯）	県の主要農産物は「りんご」であるが、高齢化と担い手不足による放任園地が増加しており、その対策が喫緊の課題となっている。また、当地区特有の業種である「りんご移出業者（りんごの中卸業）」も、仕入先（生産量）の維持を図る必要があった。
取組み内容	移出業者、青森県、当行の3団体で、地域の中核を担うりんご生産者（個人）を合同訪問し、各団体の見地から法人化によるメリット・デメリットと法人設立後の支援策を提示。地場産業維持の受け皿となる法人の設立を目指した。 成功事例を農業者に見せ生産者の意識改革を図り、中核農業者の法人化による放任園地の集約化・規模拡大の動機付けに取り組んだ。 川上から川中の商流を安定させることで、ウィンウィンの関係を構築した。
成果（効果）	地域の中核農業者1先の法人化に至る。今後3団体合同で同社を支援し、法人化の成功事例に導くことで生産者の意識改革へと繋げる。 【当面の3団体の支援策】 管理会計の導入支援・6次産業化認定申請支援による事業拡大支援 販路拡大支援・農の雇用事業等申請支援によるコスト削減・ 放任園地の斡旋・資金調達支援

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 みちのく銀行）

タイトル	JR東日本 常設地産品ショップ「のもの」への職員研修派遣
動機（経緯）	JR東日本との連携強化の中で、常設地産品ショップ「のもの」オープン時に、第1弾「青森県」特集期間の店頭販売スタッフとして職員の研修派遣提案を受け、地方色豊かな地産品に対して首都圏のマーケットとしての機能を提供するという、これまでとは一線を画す観点を持つ企画であったことから、企画に賛同した。
取組み内容	3週間2～3名の派遣依頼に対し、3週間2名・1週間1名を派遣。うちビジネスマッチングとアグリビジネスの担当者各1名を、店頭業務従事によって、消費者目線に近い商品選別力（目利き力）醸成を意図し派遣した。
成果（効果）	店頭の商品に関して納品から販売まで携わることにより培われた商品を「見る目」に関して今後、店舗のPOSデータ（各商品の販売個数・購入者の性別・年齢・時間帯などのデータ）とも照らし合わせ、より具体的な内容に落とし込んだ資料を作成したうえで、より売れる商品づくりなどに向けたアドバイスを取引先に対して行えるように、行内での共有および取引先支援に役立てていきたいと考えている。

平成24年1月13日

各位

株式会社 みちのく銀行

～JR東日本グループ「地域再発見プロジェクト」～

「上野駅 常設 地産品ショップ『のもの』第1弾〈青森県〉」への当行職員の派遣について

みちのく銀行（頭取 杉本 康雄）は、JR東日本（東日本旅客鉄道株式会社）グループが推進している「地域再発見プロジェクト」に賛同し、今般、『上野駅（東京都）中央改札外グランドコンコース』にオープンする「地域を応援する！地産品ショップ『のもの』」に、当行職員を販売スタッフの一員として、期間限定で派遣いたします。

今般オープンする『のもの』は、生産者や行政と連携しながら、地のもの、旬のもの、縁（ゆかり）のものといった地域ならではの食を中心とした魅力的な商品を紹介する地産品ショップであり、記念する第1回目が青森県にスポットが当てられることから、当行では青森県とともに職員を派遣し、お客様に「青森の魅力」をお伝えすることで、地域経済の発展に寄与してまいります。

つきましては、「内覧会」「オープニングセレモニー」をJR東日本により下記のとおり開催いたしますので、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、是非ともご来場の上、取材くださいますようお願い申し上げます。詳細につきましては、別添のJR東日本プレス資料を併せてご覧いただきたくお願いいたします。

記

1. 当行職員の派遣

- (1) 派遣人数 3名
- (2) 派遣期間 平成24年1月18日（水）～2月9日（木）

2. 内覧会・オープニングセレモニー 開催概要（JR東日本プレス資料より）

(1) 開催日時

【内覧会】平成24年1月19日（木） ※プレス関係者専用

12:45 受付開始

13:00 内覧会開始（～14:30終了）

【オープニングセレモニー】平成24年1月20日（金）

10:35～11:00 オープニングセレモニー

11:00 オープン

(2) 開催場所

『のもの』上野駅中央改札外グランドコンコース（ガレリア内）

3. 地産品ショップ『のもの』概要（JR東日本プレス資料より）

【ショップ概要】

- 店舗名称：『のもの』
- 開業日：平成24年1月20日（金）
- 場所：上野駅中央改札外 グランドコンコース（ガレリア内）
- 運営会社：株式会社ジェイアール東日本商事
- 店舗面積：96.7㎡（約29.3坪）

【販売スケジュール】

第1回＜青森県＞期間：平成24年1月20日（金）～2月9日（木）

第2回＜茨城県＞期間：平成24年2月10日（金）～2月28日（火）

※ 上記以降のスケジュールは、決定次第WEBや『のもの』店舗にてお知らせします。

（WEBアドレス：www.jreast.co.jp/saihakken）

【ショップコンセプト】

『のもの』は、作り手である生産者が商品と地域の魅力を伝えるショップです。新鮮な産直野菜や果物をはじめ、素材を厳選した調味料や加工品等を、地域ならではの食べ方と合わせてご提案します。また、商品の魅力だけでなく、地域のPRも行い、お客様が地域に足を運ぶきっかけをつくっていきます。

『のもの』とは、

旬「のもの」、地「のもの」、縁「のもの」、海「のもの」、山「のもの」・・・

産地のおいしいものや、いいものをたくさん集め

地域「のもの」を編集した楽しいお店です。

4. 本件に関するお問い合わせ先

みちのく銀行 営業戦略部 地域振興グループ

TEL：017-774-1252（担当：菊池・野澤）

お問い合わせ時間：（平日）9：00～17：00

以上



～ 旬のもの、地のもの、縁(ゆかり)のもの ～



1月20日(金)、上野駅に 地産品ショップ『のもの』が誕生します！

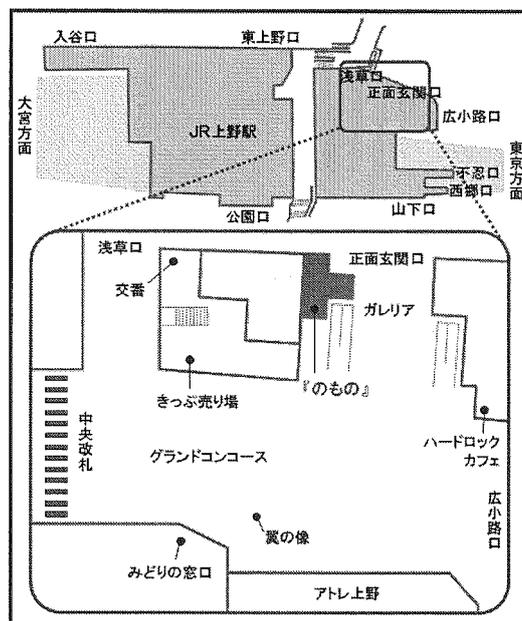
- JR 東日本グループでは鉄道ネットワークを活かし、地域と一体となって、「ヒト」と「モノ」の循環を創出する「地域再発見プロジェクト」を推進しています。
- そのプロジェクトの一環として、各地域の食を中心とした常設店として地産品ショップ『のもの』を2012年1月20日(金)、上野駅にオープンします。
- 『のもの』では、地域の生産者や行政と連携しながら、「旬のもの、地のもの、縁(ゆかり)のもの」といった魅力的な地産品を販売します。
- 一定期間毎に各地域にスポットを当て、その地域の地産品を紹介する変化に富んだ売場作りを行います。1月20日(金)から約3週間では、第一弾として青森県産の新鮮な野菜や果物をはじめ、加工品、スイーツ、地酒などを取り揃えます。
- 首都圏ニューデイズ9店舗でも「のもの」コーナーを設け、青森県産品を販売します。



ショップ概要

- 店舗名称:『のもの』
- 開業日時:2012年1月20日(金) 11:00
- 営業時間:物販 11:00~22:00
(土休日のみ 10:00~21:00)
カフェ 7:00~22:00
(土休日のみ 7:00~21:00)
- 場 所:上野駅中央改札外グランドコンコース(ガレリア内)
- 運営会社:(株)ジェイアール東日本商事
- 店舗面積:96.7㎡(約29.3坪)

<ショップ位置図>



<内観イメージ>

「AOMORI 1.20-2.9」の開催

- 日 時:1月20日(金)~2月9日(木)
- 主 催:青森県、みちのく銀行、東日本旅客鉄道(株)、
(株)ジェイアール東日本商事
- オープニングプレゼント:

ショップでは、青森県庁とみちのく銀行のスタッフが、お客さまに地元の魅力をお伝えし、お買い物をサポートします。

「のもの」でお買い上げいただいたお客さま(先着150名)に、「青森 ヒバの香り ホットバス(入浴剤)」をプレゼントいたします。

＜「AOMORI 1.20-2.9」期間限定商品例＞

「リンゴ」

国内生産量約54%と日本一のりんごの生産地、青森から選りすぐりのりんごをご用意します。



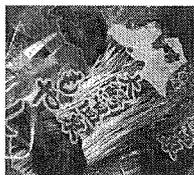
「にんにく」

国内生産量の約80%という高いシェアを占める青森県のにんにくは、大玉で1片が大きく実がよくしまり、雪のような白さと品質の良さが自慢です。



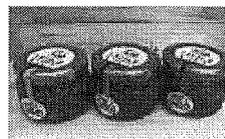
「大鰐温泉もやし」

生産者が少ないため大変希少な、津軽の冬を代表する伝統野菜です。土室に在来品種の「小八豆」を蒔き、地熱と温泉水を掛けて栽培。シャキシャキした歯応えが特徴です。



「よしだ家 にんにく味噌」

＜四季菜にんにく＞



青森県三戸にて栽培されるこだわりのニンニク100%と天然醸造の味噌を使用。甘さ控えめで、野菜炒めや焼きおにぎりに合います。

「あじわい林檎ジュース」

＜津軽ファーマーズクラブ＞



リンゴの生産から加工、販売までを手がける「山野りんご」の100%生果汁りんごジュースです。樹上で完熟させたリンゴをさらに厳選して作りました。生のリンゴの風味をご堪能頂けます。

「アップルジンジャーシロップ」

＜津軽ファーマーズクラブ＞

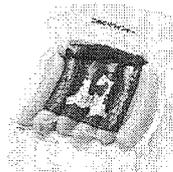


青森県産100%りんごジュースに国内産の生姜、レモン果汁、香辛料を加えたジンジャーシロップです。ほのかなりんごの香りと、ほっとする甘さの口あたり、爽やかな喉ごし、スパイシーな生姜の辛みが後を引く美味しさです。

「こめどりウインナー」

＜トキワ養鶏＞

国産飼料米で育てた鶏の肉を使った、ヘルシーでジューシーなウインナー。さっぱりとした味の中に、素材の旨が詰まっています。



「元祖 いちご煮」

＜味の加久の屋＞

「いちご煮」の名は、お椀に盛付けたとき、ウニの姿が、「野いちご」のように見えることから名付けられました。塩とわずかな醤油だけで味付けをしたシンプルで贅沢な八戸地方の伝統磯料理です。



「朝の八甲田」

＜アルパジョン＞



八戸のケーキショップ「アルパジョン」の大人気のチーズケーキ。八甲田の朝をイメージして作られた滑らかでクレーミーなチーズケーキです。今回は、お買い求めやすい2個入りもご用意します。

「田酒アンパン」

＜セブール＞



銘酒「田酒」の酒粕を生地になり込んだ熟成粒あんぱんです。甘さ控えめのつぶ餡に、「田酒」の酒粕を練りこんだしっとりした生地がとても良く合います。

「アオモリシードル」

＜JR 東日本青森商業開発＞



青森県産の中でも厳選したりんごだけを贅沢に使用し、「A-FACTORY」で自家醸造したこだわりのシードルです。

「吟醸酒 じよっぱり」

＜六花酒造＞

赤いダルマが目印の吟醸酒「じよっぱり」。酒造好適米「華吹雪」を四割以上研磨して造られた、華美に香り立つ吟醸の名作です。飲む人を魅了する優雅な味わいと鮮やかさを持つ銘酒です。



＜東日本エリアの商品例＞

「発酵の郷越後」

＜新潟県・峰村商店＞

新潟産の大豆と米を使用し熟成した新潟育ちの味噌。味噌本来の香りとコクが楽しめます。



「山形尾花沢のだし」

＜山形県・尾花沢食品＞

山形県の郷土料理として親しまれて来た「だし」に昆布の旨みを加え仕上げました。調味料は極力使用せず、野菜本来の味を出しています。ご飯・お豆腐・納豆にぴったり！



「ほんのりピーチ」

＜福島県・みずほフーズ＞



太陽をいっぱい浴びた福島の美味しい桃で、さっぱりした甘酢漬けを作りました。昔ながらの作り方で、桃の香りとコリコリの食感が意外な美味しさは、なつかしいふるさとの味です。

「五目おこわ」

＜宮城県・イーストファーム宮城＞

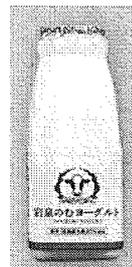
宮城県南郷町の豊かな自然の中で、独自の低農薬自然栽培法によって丹念に作られたお米「栄週米」を使用。各種ビタミン、ミネラルが豊富で、澱粉や糖分の含有量は抜群です。



「岩泉 飲むヨーグルト」

＜岩手県・岩泉乳業＞

岩泉町では、豊かな森と清流を生かし、長命、連産の牛が多く飼われています。牛乳に通常の2～3倍の発酵時間をかけ、より深く、よりまろやかな風味を実現しています。



お待たせしない決済システム

「のもの」店内では、Suica 専用ハンディー端末を導入し、Suica をご利用のお客さまのお会計がスムーズに行えます。

「のもの」マルシェ

「のもの」店頭にて、“青森の冬”ならではの「越冬寒熟野菜」や希少でなかなか手に入らない津軽の伝統野菜「大鰐温泉もやし」などの個性豊かな野菜や果物が並びます。また、にんにくやカラフルでめずらしいじゃがいも数種の詰め放題もご用意します。

○期間：1月20日(金)～23日(月)、31日(火)～2月5日(日)
(各日商品が無くなり次第終了)

※上記の期間以外にも、一部商品を「のもの」店内で販売します。

「のもの」マルシェでは、JR東日本(フロンティアサービス研究所)と「㈱バンダイナムコゲームス」が共同で研究を進めている、自立型蓄電装置を搭載した「スマート什器(仮称)」を使用します。

<マルシェ商品例>

「越冬完熟野菜」

秋に収穫した野菜を上手に長く保存するため、雪を利用した先人の知恵と技が詰まっています。雪が野菜を瑞々しく保存しながら、寒さがアミノ酸を増やし糖度を高めます。



「テイステイングポテト」

カラフルでめずらしい10種類のじゃがいもをセットにした「テイステイングポテト」。今回は、その中から人気の高い5種を詰め放題で販売します。

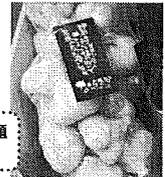
詰め放題あり



「にんにく」

国産にんにくの最高峰ときわ地区のにんにく。青森の厳しい冬を雪の下で過ごし、約9ヶ月間もの長期に渡り大地の養分を吸収したにんにくは、糖度が高くコクがあります。1個から販売、詰め放題も行います。

詰め放題あり



「のもの」カフェ

「のもの」店内にて、各地域の食材を使用した料理や地酒を気軽にご堪能いただけるカフェを展開します。

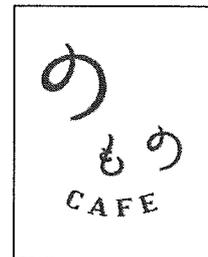
<「AOMORI 1.20-2.9」期間中のメニュー例>

- ・青森りんごソフトクリーム
- ・利き酒セット(利き酒師がセレクトした青森の地酒3種飲み比べ)
- ・青森のおつまみ各種(トコトコ舎の味付玉子、ささみスモーク、こめどりウインナー等)

<グランドメニュー例>

- ・おやき
- ・おつまみ各種(岩手産若鶏焼き、那須三元豚ベーコン等)
- ・ドリンク各種(地酒、地ビール、ジュース、コーヒー等)

※利き酒セット、おつまみ各種は 11:00 より販売します。



プロモーションコーナー

「のもの」店内にて、各地域の生産者が商品の魅力を直接伝えるコーナーを展開します。

<「AOMORI 1.20-2.9」期間中の展開スケジュール>

展開期間	メーカー	内容
1/20(金)～1/22(日)	かねさ(株)	130余年の伝統ある津軽味噌の「かねさ」が、「みそチャップ」や「しょうが味噌」をレシピとともにご紹介します。
1/20(金)～1/26(木)	(有)アルパジョン	チーズケーキ「朝の八甲田」で有名な八戸のケーキショップ。チーズケーキ、プリン、ブラウニーのほか、新商品もご用意しています。
1/27(金)～1/30(月)	六花酒造(株)	弘前で1719年から続く蔵元。代表的な銘柄「じよっぱり」のほか、通常酒蔵でしかお出ししていない生酒を数量限定で特別に販売します。
1/31(火)～2/5(日)	(同)津軽ファーマーズクラブ	津軽の象徴、岩木山の麓でこだわりの農産物を作っている農家が結集しました。“冬の青森”ならではの雪下人参、にんにく、ごぼうなどの野菜とそのジュースやオイル、チップスなどの加工品を販売します。
2/6(月)～2/9(木)	八戸ハマリレーションプロジェクト(HHRP)	八戸の水産業に携わる有志が、業界・業種の枠を越えて結集し、水産品の価値向上のために、様々な活動を展開しています。今回は、八戸を代表する郷土料理品の他、八戸のハマ自慢の「イカ」や「鯖」を使用した特色ある水産加工品、八戸名産品を紹介・販売します。

市町村コーナー

「のもの」店内にて、各地域の市町村が「いちおし」商品の販売や観光 PR を行うコーナーを展開します。

<「AOMORI 1.20-2.9」期間中のスケジュール>

期間	市	期間	市
1/20(金)～1/22(日)	弘前市	2/1(水)～2/3(金)	三沢市
1/23(月)～1/25(水)	五所川原市	2/4(土)～2/6(月)	黒石市
1/26(木)～1/28(土)	十和田市	2/7(火)～2/9(木)	八戸市
1/29(日)～1/31(火)	青森市		

NEWDAYS「のもの」コーナー

「のもの」と連動する形で、首都圏のエキナカを中心に主要駅で強力な店舗ネットワークを持つ NEWDAYS にて魅力的な地産品の販売を行います。専用の什器を新たにデザインし、お客さまの日常に、地域の魅力的な商品をお届けします。

<NEWDAYS「のもの」コーナー展開店舗>

ecute 上野公園通路店、ecute 上野大連絡通路店、品川店、有楽町店、池袋西口店、大宮店、川崎東口店、戸塚店、新浦安店（以上9店舗）



<NEWDAYS店頭ポスター>

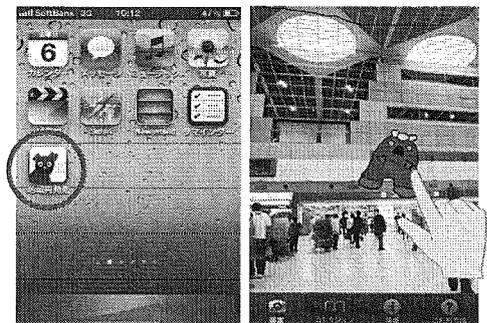
スマートフォン専用「地域再発見アプリ」

パーソナルな情報発信を行うツールとして、スマートフォン専用無料アプリを開設します。「地域再発見プロジェクト」の紹介や、「のもの」の紹介、その他、自由に動きまわる県のマスコットキャラクターを捕まえるゲームなど、楽しいエンタメコンテンツを展開します。（サービス開始は、iPhone版は1月18日、Android版は3月中旬を予定しております。）

今後は、順次、オススメ商品や地域情報等の内容充実を図り、地産品のWEBショップとの連携を予定しております。

また、「のもの」専用のホームページも開設しています。

<のものホームページURL> <http://www.jreast.co.jp/nomono/>



<「地域再発見アプリ」>

今後のスケジュール(予定)

東日本エリアを中心に、今後も各エリアにスポットを当て、変化のある売場展開を行います。

期間	地域
2/10(金)～2/28(火)	茨城県
2/29(水)～3/20(火)	東京都 台東区
3/21(水)～4/13(金)	栃木県
4/14(土)～5/8(火)	岩手県

※写真はすべてイメージです。販売商品に変更になる場合があります。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 みちのく銀行）

タイトル	レストラン（食事会型）商談会の開催
動機（経緯）	<p>当行単独での商談会企画を検討する中で、震災後、復興支援を意図して東北地区に焦点を絞った商談会や展示即売会が数多く開催されるようになり、バイヤーに興味を持ってもらうには更に強い特色を持った企画が必要となった。</p>
取組み内容	<p>当行の特色である道南エリアへの店舗展開を活かし、地元青森県と合わせて良質な一次産品の素材の良さを商談会のアピールポイントにしてはどうかとの発想から、レストランでの商談会企画を検討するに至った。また、バイヤー招聘を考慮し、首都圏での開催場所を選定する中で、青森食材のレシピ本を出版している「熊谷喜八シェフ」に企画提案をしたところ、復興支援の意図も込めて是非にと快諾をいただいた。</p>
成果（効果）	<p>昨年11月、熊谷シェフが出展社の食材を使用したメニュー23品を創作、バイヤーに食事会として提供し、個別商談を行うスタイルで、「津軽海峡“食”景色 青森・函館商談会 inK I H A C H I」を開催することができた。</p> <p>商談会の形式やコンセプトについて、内外から高い関心を寄せられ、また出展商品の統一感により、有効な面談を多く行うことができた。</p>



平成23年9月12日

各位

株式会社 みちのく銀行

「津軽海峡食景色 青森・函館商談会 in KIHACHI」出展社の募集について

みちのく銀行（頭取 杉本 康雄）は、5年後の新幹線函館延伸を見据えた中で、青森県と北海道南を津軽海峡経済圏ととらえ、アグリビジネスへの取組みを強化しております。

今般、その取組みの一環として、食品の販路拡大による取引先支援および地域活性化を目的に、下記のとおり商談会を開催するのに際し、出展社を募集いたします。

東京銀座のレストラン「KIHACHI」を会場に、青森にゆかりの深い熊谷喜八氏に出展社の食材を調理していただき、青森・函館の食のイメージアップ・PRを図ると共に、食を通じて震災復興を目指す地元の元気を東京でアピールいたします。

記

1. 商談会 開催概要

(1) イベント名	津軽海峡食景色 青森・函館商談会 in KIHACHI — 震災復興の願いを込めて熊谷喜八が津軽海峡を料理します —
(2) 開催日時	平成23年11月25日（金） 11：30～15：30
(3) 開催場所	KIHACHI銀座本店（東京都中央区）
(4) 出展社	青森県または北海道南に事業所を有する「農畜産物生産者」および「食品加工業者」20社程度
(5) 来場者	首都圏の百貨店およびスーパー等のバイヤー60社（80名）程度
(6) 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・11:30～11:40 開会 ・11:40～14:00 食事会・フリー商談会 熊谷喜八が出展社の食材を使用し創作したメニューの食材や調理方法等について解説します。その後、ビュッフェスタイルの食事会とフリー商談会を実施します。 ・14:00～15:30 個別商談会 ※ 創作した料理のレシピを、出展社が販売促進として二次使用することも可能です。（別途相談）
(7) 主催	みちのく銀行

2. 出展社 募集

(1) 募集出展社数

青森県または北海道南に事業所を有する「農畜産物生産者」および「食品加工業者」20社程度

(2) 出展費用 「出展料 1社30,000円」および「食材の提供」

(3) 申込方法

出展申込書（別添チラシ）をお近くの当行本支店窓口にご提出いただくか、または「営業戦略部地域振興グループ」宛にFAX願います。

※出展社数に限りがございますので、お申込みいただいてもご出展いただけない場合もございますのでご了承ください。

(4) 申込締切日 平成23年9月30日（金）

以上

震災復興の願いを込めて 熊谷喜八 が津軽海峡を料理します！！



津軽海峡 食景色

青森・函館商談会

in KIHACHI

平成23年 **11月25日(金)**

＜第1部＞ 食事会、フリー商談会

11:30～14:00

熊谷喜八が出展社様（青森・函館）の食材を使用したメニュー約20品を創作し、食材や調理方法について説明します。その後、ビュッフェスタイルでの食事会と、バイヤー様と出展社様とのフリー商談会を実施します。

＜第2部＞ 個別商談会

14:00～15:30

あらかじめ商談予約したバイヤー様と出展社様との個別商談会を実施します。

【会場】 KIHACHI 銀座本店

東京都中央区銀座2-2-6

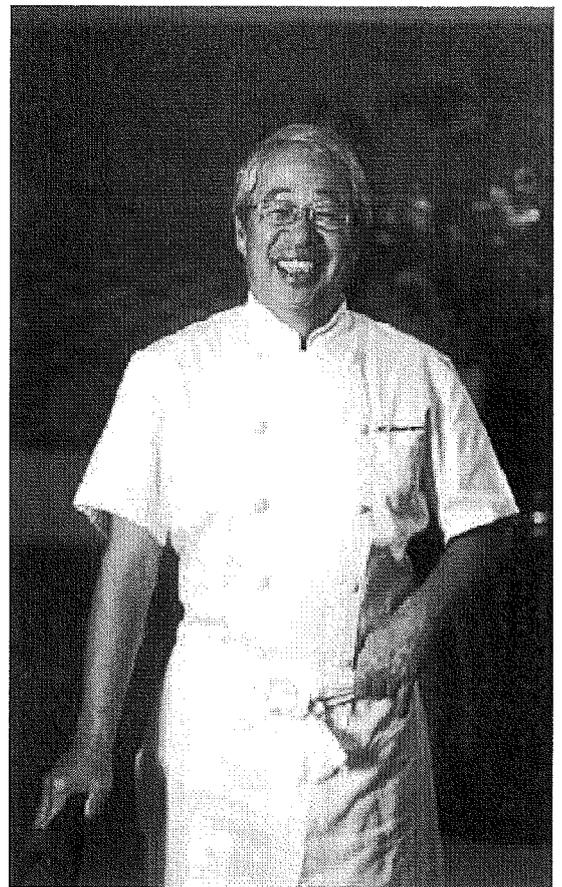
(JR有楽町駅中央口より徒歩5分)

【出展要件】 青森県または北海道南に事業所を有する
農畜産物生産者および食品加工業者

【出展料】 30,000円および食材提供

【主催】 株式会社みちのく銀行

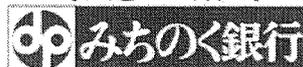
【企画運営】 リッキービジネスソリューション株式会社



《 KIHACHI 》

おいしさと楽しさに、とことんこだわったら、フレンチをベースにした無国籍料理にたどりつきました。食材の旨味をもっとも引き出す調理法や調味料を熊谷喜八の豊かな経験とオリジナリティ、そして自由な発想で、世界各地からセレクト。KIHACHIならではのジャンルを越えたひと皿が、ここにあります。

家庭の銀行



使用期限 平成23年11月25日
adH23-194

熊谷 喜八（くまがい きはち）プロフィール 《アイビー株式会社 最高顧問》

- 映画「翼よ!あれがパリの灯だ」で映し出されるパリの街並みに憧れ、料理人を目指す。
- 銀座東急ホテルを皮切りに、セネガル、モロッコ日本大使館料理長に就任後、渡仏。
- パリの「マキシム」、「パヴィヨンロワイヤル」で研鑽を積み、その後当時ジョエル・ロブション氏が率いていた「ホテル・コンコルド・ラファイエット」でセクションシェフを務める。
- 帰国後、高樹町「シルバースプーン」料理長、葉山「ラ・マーレ・ド・茶屋」の総料理長を務め、1987年、KIHACHIをオープン。
- フランス料理をベースに、からだに安全で美味しいものにこだわった、ジャンルにとらわれない日本発の洋食として KIHACHI 流無国籍料理を生み出す。
- レストランだけの世界にとどまらず、カフェやケーキショップ、そしてソフトクリームショップも展開。
- セネガル、モロッコ日本大使館にいた頃には、日本の野菜が手に入らないため、敷地内で自ら畑を作るほど、若い頃から食材に対する興味と敬愛が強い。
- また、かつて有機野菜という言葉が定着していなかった時代、日本全国の生産者を支援するためのマーケットをレストラン地階に作り、産直食材の販売を行うなど、日本全国の生産者を支援する取り組みにも余念がなかった。現在も、料理人としてお客様の口に入るものには絶対的な責任を持ちたい、という姿勢を変える事なく、“食を通して日本を元気に” 全国の産地を訪問し続けている。

【著書】

- 「KIHACHI 旬レシピ 青森の四季を料理する」(ヴィレッジブックス)
- 「KIHACHI 旬レシピ 高知の四季を料理する」(ソニー・マガジンズ)
- 「KIHACHI 四季のレシピ集」 春夏秋冬編 全4巻 (NHK 出版)
- 「KIHACHI 四季のレシピ集」 特別編、アンティパスト編、メインディッシュ編(NHK 出版)
- 「キハチのさかな 酒の肴 萩の魚」(ポプラ社)
- など多数

1946年 東京生まれ

- フランス アルパッション料理コンクールにおいて、プロスペールモンターニエ杯を日本人として初受賞
- フランス アカデミーキュリネール日本支部正会員となる
- レ・ザミ・ドウ・キュルノンスキージャポン会員
- 全日本司厨士協会 会員
- 日本フードコーディネーター協会 顧問
- 全日本洋菓子工業会 監事

<出展申込書> ※下記記載のうえ「017-774-2592」宛FAX願います。

会社名		
ご住所	〒	お電話
ご参加者	氏名	(役職)
	氏名	(役職)
商談品目		

※出展社数に限りがあるため、お申込みいただいてもご出展いただけない場合がありますのでご了承願います。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 岩手銀行）

タイトル	いわぎん次世代経営塾の開催
動機（経緯）	地域企業の後継者・若手経営者を対象にマネジメント力を強化するための自己啓発の場を提供するとともに、参加者同士の交流を深めて地域経済の発展に寄与することを目的に開講した。また、会員からの事業承継ニーズ等を引き出し、問題解決に向けた金融支援を図る。
取組み内容	県内企業23社が参加し年11回の研修会を実施。講義・グループ討議のほか、当行役員およびゲスト講師による講演、県内企業視察等を研修カリキュラムとし、最終回では参加者による自社のアクションプラン発表会を開催した。
成果（効果）	<p>【相手方にとっての成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．経営スキルの向上・参加者間での情報交換・参加企業間での商取引開始 2．現代表者や先代経営者、幹部社員等へ後継者（若手経営者）からメッセージを発する機会が得られた。 <p>【当行にとっての成果】</p> <p>参加企業との次世代に亘るリレーション強化が図られた。</p>

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 七十七銀行）

タイトル	自動車関連産業を中心とした進出企業および関連地元企業等への支援強化
動機（経緯）	宮城県への自動車関連産業の集積が加速していることに伴い、進出企業等に対する支援強化を通じ、地域経済の活性化を図る。
取組み内容	<p>(1) 東北における自動車生産が本格化する中、進出企業の集積地域に配置した専担者を中心に、本部・営業店が連携し、地元関連企業を総合的に支援。</p> <p>(2) 自動車産業への参入や新技術の開発等を目指す地元企業に対し、産学連携ネットワークの構築および技術力の向上を支援。</p>
成果（効果）	<p>(1) 東北での小型車増産に伴い、受注を獲得した地元関連企業に対し、生産能力増強のための設備資金の支援を実施。 震災による被害を受けた自動車関連企業に対し、宮城県の制度をフルに活用し、沿岸部から内陸部への工場移転に伴う土地購入資金の支援を実施。</p> <p>(2) 東北大学と共同で、地元企業の震災復興と技術力の底上げを支援するため、「ものづくり個別相談会」を開催。産学連携による取組み紹介のほか、東北大学の教授、産学連携コーディネータ、セントラル自動車㈱、東京エレクトロン宮城㈱、宮城県産業技術総合センターの担当者を招き、個別の相談会を実施。（参加企業51社、相談件数49件）</p>

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 七十七銀行）

タイトル	「営業支援部隊」の活動について
動機（経緯）	地域経済における東日本大震災からの復興や発展に向けた取組と、営業店支援を強化し復興支援ニーズや各種ソリューションニーズに対応する観点とから、本部施策として、平成23年5月に「営業支援部隊」の活動を開始した。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業支援部隊は、法人渉外担当者6名、マネーアドバイザー10名、医療・介護担当者4名の合計20名で構成されており、各種ソリューションニーズをチェックリスト形式で記載するニーズシートを営業店で活用しニーズ発掘を進め、ニーズ保有先に対しては、本部渉外担当者の帯同訪問による総合提案を実施している。 ・ 平成23年度は、合計で延べ3,947先（うち震災復興支援先295先）への訪問を実施し、資金調達や事業承継、ビジネスマッチング等各種ニーズへの対応を行った。
成果（効果）	平成23年度は、延べ3,947先への訪問の中で、法人渉外担当者、マネーアドバイザー、医療・介護担当者合計で5,729件の提案を実施し、3,990件のニーズを捕捉した。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 七十七銀行）

タイトル	P F I 事業に対する情報提供の取組み
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・ P F I 事業に対して関心の高い地方公共団体等との情報交換の中で、質問事項に対応するために本部の P F I 担当者を活用し情報提供を行った。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ A 広域行政事務組合が、B 整備事業に対する P F I 手法の導入を検討。研修会（約 50 名出席）において、本部の担当者が、「P F I 事業の概要と当行の取組み事例」と題したテーマの講演を実施した。 ・ C 市が公営住宅の建設にあたり P F I 手法の導入を検討。C 市の担当者と面談の上「P F I 事業の概要と当行の取組み事例」について説明を行った。また、導入検討に伴う不明点等の質問事項に対応した。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ A 広域行政事務組合、ならびに C 市の P F I 事業の導入検討にあたって、当行からの説明の内容を参考にさせていただくことができた。 ・ P F I 事業のノウハウを提供する一方で、当行の P F I 事業に対する取組みを理解していただくことができた。 ・ 当行の地域貢献に対する取組み姿勢を対外的に示す機会を得ることができた。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 七十七銀行）

タイトル	アグリビジネスへの取組み強化
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の基幹産業である第1次産業について、他産業との連携により付加価値を生み出す「6次産業化」への成長促進のため、販路拡大、資金供給、ビジネスマッチング等の支援を図る。 ・震災以降、被災した農業者個人が連携し法人化による事業再開を目指す動き等が出てきており、今後6次産業化のニーズが更に高まるものと期待される。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「食」に関するビジネスマッチングサイト「食材セレクション」の活用。 ・営業店・本部が一体となり農業法人を積極的に訪問し、ニーズ聴取を実施。 ・農業経営アドバイザー資格取得による目利き力の向上。 ・農業・アグリビジネスに関して情報の共有化等を目的として、野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社と「業務協力に関する覚書」を締結（平成23年7月）。 ・「6次産業経営力向上セミナー」の開催（平成23年12月）。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・運転資金を中心に応需し、農業者に資金調達手段を拡充。 ・農業生産者や農業分野への新規参入を検討している事業者等に6次産業化への情報提供を行うとともに、ビジネスマッチング情報の活用、ビジネスマッチングサイトおよび商談会への参加促進によりリレーション強化を図った。 ・農業経営アドバイザー資格を本部分行員16名が取得（平成24年3月時点）

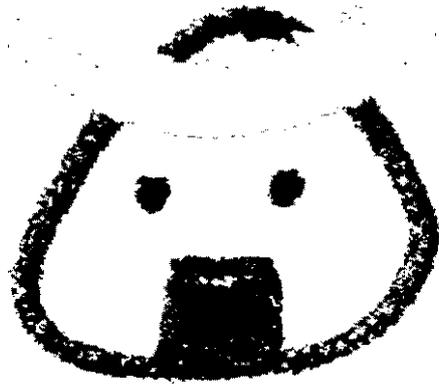
「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 七十七銀行）

タイトル	震災により影響を受けた県産品の売上回復に向けた取組みの検討
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・震災から1年が経過し、地元物産事業者の生産活動も一部において回復の兆しが見えてきているが、震災の影響により一度喪失した販路を再び取り戻すことは難しく、思うように復旧・復興が進んでいない状況にある。 ・そのような状況において、地元物産事業者の販路拡大および風評被害の払拭を支援し、地域経済の早期復興に貢献するため。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県の外郭団体である社団法人宮城県物産振興協会と協働で県産品カタログを発行し、広く県産品のPRを行うことを検討。 ・当行各営業店において取引先や来店客に配付するほか、全国地方銀行協会のネットワークを活用し、全国の地方銀行各行へも購買協力を呼びかけていく方向。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・24年4月16日にカタログ発行済み。

復興へ
頑張ろう!
みやぎ

宮城県産品カタログ



宮城県観光
PRキャラクター
むすび丸

み ぎ
味や技
はじめまして。



この度は、宮城県産品カタログ「^みや^ぎはじめまして。」をご覧いただき、誠にありがとうございます。
とうございます。

宮城県は、四季折々の表情を見せる豊かな自然に囲まれており、日本有数の漁港から水揚げされた水産物や肥沃な大地から収穫された農作物は、「みやぎブランド」として皆さまから広く愛されてまいりました。

東日本大震災は、これらの産業に関わる事業者の方々にも甚大な被害をもたらしました。沿岸部を中心に復旧・復興への道のりは依然として厳しい状況にありますが、地元事業者の方々は、「何とかして地元の素晴らしい産品を全国の皆さまに再びお届けしたい」という強い思いを胸に、日々、復旧・復興へ向けて全力で取り組んでいます。

弊行は地域と共にある金融機関として、そのような地元事業者の方々を全力で応援したいという思いから、食品の他にも地元の伝統民芸品等を加え、本カタログを制作いたしました。

贈答品としてのご利用や皆さままでご賞味いただくことにより、地元事業者の方々が一日も早く復旧・復興を果たし、再び活力ある宮城を皆さまに発信することができれば幸甚に存じます。ぜひこの機会に「宮城の味と技」をご堪能ください。



七十七銀行 取締役頭取
氏家 照彦

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 北都銀行）

タイトル	駅前活性化への寄与
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田駅前の活性化へ向け、若者が集い賑わい創出を検討 ・ 大手飲食店の直営として営業を始めるも、看板を維持しつつ独自性を高める店舗設計を検討
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ FC加盟金や営業権を払い込み、FC店への衣替えを展開。 ・ 従前の看板で営業しつつも、地場製品の提供等により、商品ラインナップが充実。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田駅前の活性化繋げるとともに、競合する大手直営店との差別化を実現。 ・ システムや従業員を維持しつつの転換を実現。 ・ 安定した集客力により、雇用（アルバイト）創出に寄与。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 庄内銀行）

タイトル	「庄内価値開発研究会」第3ステージ
動機（経緯）	地域の経済発展を考えていくなかで、観光という波及性の高い産業に着目し、交流人口の拡大やまちなかの賑わい創出を通じた地域経済の振興を目指すべく平成23年9月から「庄内価値開発研究会 第3ステージ」をスタートさせた。
取組み内容	当行が事務局となり、隔月で研究会を開催。県内外の経営者・有識者を集め、地域の価値資源とその活用法を議論する。提言に留まらず、事業化を強く意識して討議していることに特徴を有する。
成果（効果）	地域の『食』のランドマークとなる「オーベルジュ」事業と鶴岡市内中心部に残る旧工場の再活用策の2点に絞り込んで議論を展開中。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 山形銀行）

タイトル	<p><やまぎん>アグリイノベーションサポート（農業革新支援） ～アグリビジネス商談会およびアグリビジネスカレッジの開催～</p>
動機（経緯）	<p>地域産業としての農業の活性化 農業の活性化を図るには、販路拡大、農業経営の担い手育成が急務である。</p>
取組み内容	<p>「アグリビジネス商談会」開催 農業者の最大の課題である「販路拡大」を積極的にサポートするため平成 22 年度から開催。平成 23 年度からは商談会への出展簡便化、成約率向上のため、地区別に開催するなど、より効果的な商談会となるよう内容を充実してきた。 アグリビジネスカレッジの開催 農業経営の担い手育成を目的に平成 22 年度に設立した「若手農業者の会」をより有益な会とするため、会員の経営能力向上等を目的とした「アグリビジネスカレッジ」を開催。バイヤー等の外部講師を招聘しセミナーを行うなど、質の高い情報提供を実施している。</p>
成果（効果）	<p>全国に販売先を持つ通販業者、米卸業者、高級スーパーをバイヤーとして招聘。計 4 回商談会を開催し、県内 80 の企業・団体・個人が参加。商談成約率は 4 割程度（通常の弊行商談会の成約率は 1 割程度）と高い実績となった。 ビジネスマナー講習やバイヤーからのマーケット情報の提供は、「銀行だから可能な取組み」として参加者から継続開催を希望されるなど、高い評価を受けた。また、会員同士の情報交換を促すことで互いに刺激を受け合い、積極的に販路開拓に乗り出す会員も増加している。</p>

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 東邦銀行）

タイトル	「地域再生ファンド」、「資本性借入金（DDS）」の活用による事業再生支援への取組みについて
動機（経緯）	<p>1. 「地域再生ファンド」の活用 会津地区の主要産業である観光業の一翼を担っている先であり、事業継続を図ることで、地域経済の復興・活性化を支援すべく事業再生支援に取組んだもの。</p> <p>2. 「資本性借入金（DDS）」の活用 震災及び原発風評被害に苦しむ事業者の復興に向けた取組みを支援すべく、DDS対応を行ったもの。</p>
取組み内容	<p>1. 地域再生ファンド活用による事業再生支援への取組み (1) 対象企業：A社 (2) スキーム A. 対象企業に対する当行債権全額を「うつくしま未来ファンド」へ売却。 B. オーナーが保有する株式及び貸付債権をスポンサー企業へ譲渡。 C. ファンドは当行から買い取った債権をスポンサーへ譲渡。</p> <p>2. 資本性借入金（DDS）の活用 (1) 対象企業：B社 (2) 金額：200百万円 (3) 期間：10年</p>
成果（効果）	<p>1. A社は、会津地区の主要産業である観光事業の一翼を担っており、本取組みにより、事業の継続が実現し、地域経済の維持・活性化が図られるもの。</p> <p>2. B社に対しては、これまで他行協調し支援継続してきたもの。メインである当行のDDS対応により、当社の財務体質の改善とより一層の協調支援体制の確立が図られるもの。</p>

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 東邦銀行）

タイトル	地方自治体向けセミナーの開催等による、地域振興に向けた自治体との情報共有
動機（経緯）	当行が指定金融機関となっている33地公体との取引深耕・関係強化を図り、それ以外の指定・収納代理金融機関となっている地公体とも取引推進と拡大を図る。
取組み内容	<p>1．地公体が抱える問題解決に向け、タイムリーな情報を提供する。</p> <p>2．福島県及び県内市町村の二役または幹部職員を対象とする。</p> <p>（1）地方自治体向けセミナーの開催概要</p> <p>A．日時：平成23年11月14日（月）</p> <p>B．講師・演題</p> <p>佐々 淳行（前内閣安全保障室長） 「自治体における危機への対応」</p> <p>橋本 守（日本政策投資銀行ストラクチャードファイナンスグループ課長） 「震災復興時のPFIの活用」</p>
成果（効果）	<p>1．過去のセミナーはアンケート回答者の約9割が参考になったと回答している。セミナーのテーマ・構成は、自治体関係者のニーズにマッチしたものとし、参加者の満足を得る内容とした。（53団体・約150名の参加）</p> <p>2．専門家による質の高いセミナーを開催することで、他行との差別化を図り県内地公体との関係強化に繋がるとともに、地域金融機関としての当行の存在価値を高め取引推進を図ることができた。</p>

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 東邦銀行）

タイトル	当行のネットワークや情報機能を活用した、地域の面的再生・活性化のための各種セミナーの開催
動機（経緯）	1. 地域経済の活性化を図るべく、情報網と情報機能を拡充して地域企業を側面から支援していく。 2. 経営情報の提供、地域経済の活性化につながる取組みの一環として、各種セミナーを開催する。
取組み内容	経営情報の提供、地域経済の活性化につながる取組みの一環として、各種セミナーを開催した。
成果（効果）	1. 23年度上期セミナー等開催状況 (1) 地域復興セミナー（中小企業向けM&Aセミナー） 【開催日：平成23年6月6日・8日・9日・13日、参加者数123名】 (2) BCP（事業継続計画）策定ワークショップ 【開催日：平成23年9月2日・29日、参加20社】 2. 23年度下期セミナー等開催状況 (1) 地域復興セミナー（復興特区制度・福島復興再生特措法案・税制改正） 【開催日：平成24年2月15日（水）、参加者数221名】 (2) アジアビジネスセミナー（ASEAN新興国等） 【開催日：平成24年12月8日（木）、参加者数124名】 (3) 医療・介護セミナー（医療報酬改定、介護報酬改定） 【開催日：平成24年2月28日（火）、参加者数180名】

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 筑波銀行）

<p>タイトル</p>	<p>経営相談機能強化・ビジネスマッチング</p>
<p>動機（経緯）</p>	<p>取引先企業とのリレーション強化を図るため、企業間の業務・技術提携等のビジネスマッチングを行い、ビジネス交流会開催により、新たな販路拡大・販売促進を図り、取引先企業の成長を支援していきます。</p>
<p>取組み内容</p>	<p>①経営相談機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査情報レポートを配信し、対象となりうる企業へ情報提供を行いました。 ・税理士協同組合との情報交換会および各支部の例会等へ参加しました。 ・事業承継提案を通じて経営相談を実施しました。 ・セミナーを定期開催し、BCP、事業承継、経営計画作成等のコンサルタントニーズの発掘を行いました。 <p>②ビジネスマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支店からの情報を本部集約し、マッチング対象となりうる企業へ情報提供を行ない、企業間の商談を行いました。 ・震災復興支援の観点より、屋根の補修工事等のニーズへ対応するため、BtoCのビジネスマッチング（無償）の取組みを開始しました。 ・平成23年度のビジネスマッチング実績は461件となりました。（BtoC除く） <p>③平成23年度の新たな取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取引先企業の支援強化のため営業本部内に発足した「ビジネスソリューション室」を機構改革により、平成23年4月に部外室としました。 ・第2回ビジネス交流会 平成23年11月18日（金）に筑波銀行本部ビルにて第2回ビジネス交流会を開催しました。これまでの異業種交流会の路線を継承しつつ、発注企業を確保し、商談中心の交流会を開催しました。 また、地域の面的再生の観点より、中小企業への支援機関である茨城県中小企業振興公社を共催に迎えるとともに、茨城県信用保証協会、筑波研究支援センターを後援に向かえ、支援機関と連携して商談会を企画・運営しました。 【発注企業 27社、受注企業 142社（うちブース展示企業 50社）、参加者数 447人 商談件数 208商談、成約件 22数】 ・福島第一原発の事故による風評被害は深刻であり、特に食分野への支援が必要であることから、伊藤忠食品との商談会（平成24年4月23日）を企画しました。商談会へ向けた参加企業の1次セレクションである事前講習会を平成23年3月23日に開催し、伊藤忠食品の担当者と商談を実施しました。4月23日の伊藤忠食品本社での商談会には、32社が参加しました。 【参加企業 42社 後援 北茨城市、茨城県】
<p>成果（効果）</p>	<p>【相手方にとっての成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス交流会において、208件の商談が行われ、そのうち平成24年3月末時点において、22件の成約となりました。 <p>【当行にとっての成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス交流会の開催主旨である「企業間交流の場の提供」をすることができ、ビジネスマッチングにより、取引先の支援強化を図ることができました。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 千葉銀行）

タイトル	成田山新勝寺と参道の老舗企業による街の魅力のPR活動
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> 成田山新勝寺参道にある老舗和菓子メーカーA社の企業訪問を契機に、スイスに本部があるファミリービジネスネットワーク（以下「FBN」）が成田の街に興味をもち、街をPRするDVDの作製について、当行宛て相談があった。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 当行では、参拝客の減少等が懸念される成田の街の活性化に寄与するものとして、A社を中心に、新勝寺や老舗企業数社にDVD作製の協力を依頼。各企業へのインタビューや工場・店舗の撮影について協力を得た。 DVDは、老舗企業創業者一族へのインタビューや映像等を活用し、街の各種イベント、成田山新勝寺と参道の老舗企業との繋がり、老舗企業の持続性の秘訣等について、訴求した内容で完成した。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> 24年3月に行われたFBNのシンポジウムでDVDを公開し、全国のファミリービジネスオーナーや学術関係者の好評を得た。また、同シンポジウムでは、A社社長と当行成田支店長が対談し、成田の街や永続的に活動する老舗企業魅力を伝えた。 当行においても、担当部の勉強会にDVDを活用し、県内を代表する老舗企業の事業承継について学ぶとともに、専担者を中心に知識・ノウハウが蓄積された。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 千葉銀行）

タイトル	千葉市との「地域経済活性化に関する連携協定」の締結
動機（経緯）	当行と千葉市の双方が持つ資源を有効に活用し、千葉市の一層の経済活性化と市民サービスの向上に協働で取り組むことを目的に締結した。
取組み内容	<p>【連携事項（8項目）】</p> <p>国際経済交流の推進、 企業立地支援、 創業・新事業創出支援、 中小企業支援、 アントレプレナーシップ教育、 地産地消・農商工連携の推進、 市産品オリジナル商品の開発・販売、 観光振興、 人的交流。</p>
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地支援・・・市内進出を検討する企業への合同訪問や、銀行営業店における進出補助制度の周知活動の共同実施。 ・中小企業支援・・・千葉市産業振興財団の後援による「ちばぎんビジネスマッチング商談会」の開催。 ・アントレプレナーシップ教育・・・千葉市の後援による「ちばぎんKIDSセミナー」の開催。

取組事例の紹介

千葉市と株式会社千葉銀行との地域経済活性化に関する連携協定に係る連携事業

連携項目	協定締結前から継続して実施している事業	協定締結後に実施・継続としている事業
国際経済交流の推進に関すること		千葉銀行主催事業 【事業名】 呉江市副市長来日時時の企業訪問受け入れ 【日時】 平成24年1月11日(水) 15時00分～16時00分 【会場】 千葉銀行会議室 【参加】 呉江市副市長、商招局局長ほか3名
国際経済交流の推進に関すること		千葉銀行主催事業 【事業名】 呉江市への企業訪問団派遣 【日時】 平成24年度中 【場所】 呉江市 【参加】 頭取、県内企業
企業立地に関すること		【事業名】 企業誘致活動 【日時】 平成24年度～ 相互に企業にかかる情報を収集し、合同で企業訪問を行う。また、千葉銀行各支店において顧客に対し、千葉市の企業立地補助制度を周知するとともに、顧客の立地ニーズを把握し、誘致につなげる。
創業・新事業創出支援に関すること	市産業振興財団への協力 1. 平成13年4月の設立時より、行員OBを派遣。 2. 『ベンチャー・カップCHIBA』 ・平成14年度の第1回より審査委員を派遣 ・平成22年度の第9回より開催費用の協賛	継続実施を検討。
中小企業の支援に関すること	中小企業資金融資制度のメニュー新設等、制度改正に係るアドバイスを実施。	千葉銀行主催事業の後援 【事業名】 「ちばぎんビジネスマッチング商談会with大和ハウス工業」 【日時】 平成24年2月23日(木)・24日(金) 10時00分～16時30分 【会場】 塚本ビルちばぎんセミナールーム 【主催】 千葉銀行、大和ハウス工業 【後援】 ちばぎん総合研究所 (財)千葉市産業振興財団 【参加者】 56社 内市内企業16社
アントレプレナーシップ教育に関すること	新規起業や企業の新分野進出を支援するため、市、民間、市民が一体となった、千葉市発の有志による人的ネットワーク「1000リーフパートナーシップ」への参加	継続実施を検討。
アントレプレナーシップ教育に関すること	西千葉子ども起業塾への協力 講座の中で、子ども達の事業計画に融資をする「西千葉銀行」を運営。行員の派遣。 【事業名】 「西千葉子ども起業塾」 【日時】 平成23年8月18日(木)～20日(日) 【会場】 千葉大学、ゆりの木商店街ふくろう広場 【参加】 小学校4年生～6年生 20名 【主催】 千葉市、千葉大学、千葉大学経済人倶楽部「絆」	千葉銀行主催事業の後援 【事業名】 「ちばぎんKID'Sセミナー」 【日時】 平成24年3月27日(火) 13時00分～15時00分 【会場】 ちばぎんコンサルティングプラザ千葉セミナールーム 【参加】 小学校新2年生～新4年生 20名程度 保護者同伴 【主催】 千葉銀行 【後援】 千葉市

連携項目	協定締結前から継続して実施している事業	協定締結後に実施・継続としている事業
地産地消・農商工連携の推進、市産品オリジナル商品の開発・販売に関すること		ちばぎんアグリビジネスセミナー(平成21年11月4日開催)、ちばぎんアグリ商談会(平成22年8月6日開催)等の農商工連携セミナーを実施する際は千葉市の後援又は共催を行っていく。
地産地消・農商工連携の推進、市産品オリジナル商品の開発・販売に関すること	遊休農地の利活用を推進するため、所有者に了解を得た「遊休農地情報」(台帳及び市ホームページ)の提供を準備中(平成24年4月1日より)。	今後、遊休農地を耕作希望する新たな担い手の確保につなげる連携について検討を行う。
地産地消・農商工連携の推進、市産品オリジナル商品の開発・販売に関すること		6次産業化に係る資金調達などについて打合せを実施。
観光振興に関すること	観光プロモーション活動	継続実施を検討。
観光振興に関すること	千葉銀主催事業に出展 千葉競輪のPRブースを設置し、中国人観光客の誘致活動を実施。 【事業名】 第2回千葉県観光ビジネス商談会 【日時】 平成22年12月7日 13:00～17:00 【会場】 ちばぎん本店3階大ホール 【主催】 千葉銀行 【後援】 千葉県、千葉県観光協会、千葉県経済同友会、ちば国際コンベンションビューロー、 中小企業基盤整備機構関東支部 【参加者】 200名程度 出展40社	継続実施を検討。
人的交流に関すること		連携協定の推進及び項目ごとの連携を具体化するための場の設置を検討。4月当初の設置予定。部会として「企業誘致部会」「国際経済交流部会」を予定。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 東京都民銀行）

タイトル	C S R活動の一環による環境配慮型定期預金「ECODOMO 定期預金」の取扱い
動機（経緯）	東京都環境局から東京都・金融機関・事業法人・個人の4者で構成する「エコ金融プロジェクト」共同参加の打診による。
取組み内容	本預金を通じて集められた預金残高に応じて、最高500万円を環境活動クラブである「こどもエコクラブ」に寄付することにより、環境配慮の取り組みを支援する。
成果（効果）	東京都との連携により、事業者及び都民の環境配慮行動を金融面から支援し、企業の社会的責任を達成する。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 東京都民銀行）

タイトル	CSR活動の一環による環境配慮型定期預金「花粉の少ない森づくり定期」の取扱い
動機（経緯）	CSR活動の一環として取扱いを実施。
取組み内容	本預金を通じて集められた預金残高に応じて、公益財団法人東京都農林水産振興財団が実施する「花粉の少ない森づくり募金」へ寄付を行う。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した商品を提供することで、企業の社会的責任を達成する。 ・「花粉の少ない森づくり募金」への寄付金は、「花粉発生源のスギ伐採」と「花粉の少ないスギの植替え」等にあてられる。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 東京都民銀行）

タイトル	CSR活動の一環による環境配慮型定期預金「東京緑の定期」の取扱い
動機（経緯）	当行・東日本銀行・八千代銀行の3行による「しゅとねっと」では、CSR活動の一環として取扱いを実施。
取組み内容	当行・東日本銀行・八千代銀行3行による「しゅとねっと」では、本預金を通じて集められた預金残高に応じて、最高100万円を東京都が実施する「緑の東京募金」に寄付する。寄せられた募金は、「緑の東京募金基金」に積み立てられ、東京緑化事業に役立てられる。また、「緑の東京募金」の振込口座を設け、お客さまからの募金受付を行う。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への取組みは企業市民として重要な責務であり、環境に配慮した商品提供を行うことで、企業の社会的責任の達成を図る。 ・東京緑化事業に寄与する。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 横浜銀行）

タイトル	PPP / PFIへの取組
動機（経緯）	<p>地方自治体の財政健全化が求められるとともに、公共インフラ施設の老朽化が進む中、民間の資金やノウハウを活用した低廉良質な公共サービスの提供の補助と地元企業の支援をおこない、地域経済へ貢献することを目指して取組を強化してきた。</p>
取組み内容	<p>・地元庁舎関連施設整備事業につき、単独にてプロジェクトファイナンスを供与</p>
成果（効果）	<p>【地域にとっての成果】 低廉且つ良質な公共サービス施設の調達 財政負担の平準化 【当行にとっての成果】 H23年度、プロジェクトファイナンスにおいて1件、47億円の融資契約を締結。</p>

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 横浜銀行）

タイトル	問題解決型営業実践による地域経済活性化への取組み														
動機（経緯）	<p>当行では、中期経営計画の重点施策として「リージョナル・リテールの強化」を掲げ、「当行が強みを持つ神奈川県における融資取引シェア拡大による持続的な成長をはかる」こととしているが、これを実現するには「地域密着型金融」への取組みを強化することが必要不可欠である。</p> <p>この「地域密着型金融」の本質は、金融機関が顧客との長期的な取引関係により得た情報の活用や、質の高いコミュニケーションを通じて、顧客の経営状況等を的確に把握し、これにより顧客への金融仲介機能の強化をはかることにある。</p> <p>したがって、地域密着型金融への取組みにあたっては、顧客接点を高め、顧客実態・ニーズを把握し、顧客と一緒に問題解決に取組み顧客の信頼を獲得すること、すなわち「問題解決型」の営業活動を実践することが、地域経済活性化に繋がると考えている。</p>														
取組み内容	<p>1. ビジネスマッチングの強化</p> <p>取引先の販路拡大支援のため、以下の商談会を企画・実施した。</p> <table border="1" data-bbox="443 824 1458 1055"> <thead> <tr> <th>商談会名</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地方銀行フードセレクション 2011</td> <td>平成 24 年 11 月、地方銀行 37 行が参加した食の商談会。総出展社数 613 社うち当行 34 社が出展した。</td> </tr> <tr> <td>ミニ商談会開催</td> <td>平成 24 年 3 月、ロイヤルホームセンターのバイヤーを招き商談会を開催。当行取引先 16 社を引き合わせ</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 大企業の技術活用による中小企業の新製品開発支援（知財セミナー開催）</p> <p>平成 24 年 2 月、当行が取り組む継続的な取引先企業等への経営支援活動の一環として、川崎市内の当行取引先・新規推進先企業を対象に、富士通(株)の知的財産を活用した新製品開発手法・事業化に関するセミナーを開催し、川崎ブロックの取引先 35 社 42 名が参加。</p> <p>また、知財活用に興味のある取引先に対しては、川崎ブロックの営業店がフォローし、川崎市の支援のもと、川崎市産業振興財団のコーディネーターに取り次ぎ、知財移転、新事業展開へのサポートを継続的に行う支援体制を構築した。</p> <table border="1" data-bbox="443 1487 1458 1760"> <thead> <tr> <th></th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象先</td> <td>川崎市内の当行取引先・新規推進先</td> </tr> <tr> <td>セミナー内容</td> <td>スペシャルトーク「中小企業が特許ライセンスで目指すこと」 講演 「富士通の技術ライセンス活動と実績」 シーズ紹介 「富士通の技術に関するご紹介」</td> </tr> <tr> <td>後援者</td> <td>関東経済産業局、川崎市、川崎市産業振興財団、浜銀総合研究所</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 公的機関活用による経営支援</p> <p>当行が取り組む継続的な取引先企業等への経営支援活動の一環として、当行取引先企業等を対象に、経済産業省関東経済産業局から講師派遣を受け、補助金施策情報の提供、施策活用の助言等を行うためのセミナーを開催。こうした、補助金等の公的支援策を取引先企業等へ紹介するなどの経営支援活動を行うことにより、当行各営業店の法人新規企業の開拓および既存取引先企業へのコンサルティング活動等の営業支援を実施した。</p>	商談会名	内容	地方銀行フードセレクション 2011	平成 24 年 11 月、地方銀行 37 行が参加した食の商談会。総出展社数 613 社うち当行 34 社が出展した。	ミニ商談会開催	平成 24 年 3 月、ロイヤルホームセンターのバイヤーを招き商談会を開催。当行取引先 16 社を引き合わせ		内容	対象先	川崎市内の当行取引先・新規推進先	セミナー内容	スペシャルトーク「中小企業が特許ライセンスで目指すこと」 講演 「富士通の技術ライセンス活動と実績」 シーズ紹介 「富士通の技術に関するご紹介」	後援者	関東経済産業局、川崎市、川崎市産業振興財団、浜銀総合研究所
商談会名	内容														
地方銀行フードセレクション 2011	平成 24 年 11 月、地方銀行 37 行が参加した食の商談会。総出展社数 613 社うち当行 34 社が出展した。														
ミニ商談会開催	平成 24 年 3 月、ロイヤルホームセンターのバイヤーを招き商談会を開催。当行取引先 16 社を引き合わせ														
	内容														
対象先	川崎市内の当行取引先・新規推進先														
セミナー内容	スペシャルトーク「中小企業が特許ライセンスで目指すこと」 講演 「富士通の技術ライセンス活動と実績」 シーズ紹介 「富士通の技術に関するご紹介」														
後援者	関東経済産業局、川崎市、川崎市産業振興財団、浜銀総合研究所														

	<p>【公的補助金支援策活用セミナー】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #ffffcc;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催時期</td> <td>平成 23 年 12 月</td> </tr> <tr> <td>参加企業</td> <td>24 社 32 名</td> </tr> <tr> <td>セミナー 内容</td> <td>「公的補助金支援策の概要について」 ～ 経済産業省 平成 23 年度第三次補正予算を中心に ～ 講師：関東経済産業局</td> </tr> </tbody> </table> <p>【環境設備投資のための公的補助金活用セミナー】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #ffffcc;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催時期</td> <td>平成 24 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>参加企業</td> <td>51 社 69 名</td> </tr> <tr> <td>セミナー 内容</td> <td>「新エネルギー・省エネルギー導入支援施策の背景と支援策の 紹介」 講師：関東経済産業局 「E S C O事業の概要について」 講師：一般社団法人 E S C O 推進協議会 会員企業</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 地域開発案件への取り組み 下記の地域開発案件について地元建設関連企業を施主・元受建設会社に紹介。</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>施設概要：共同住宅 292 戸（京急、大和ハウス工業）、商業。地上 38 階、地下 2 階 所在：横須賀市大滝町 2 丁目 事業主体：大滝町二丁目地区市街地再開発組合 施工：(株)浅沼組 参加組合員：京急電鉄、大和ハウス工業 工事費：95 億円予定。（24 / 12 着工、27 年度竣工予定 融資：当行シローンアレンジャー 42.7 億（うち当行 30 億円参加）</p> </td> </tr> </table>	内 容		開催時期	平成 23 年 12 月	参加企業	24 社 32 名	セミナー 内容	「公的補助金支援策の概要について」 ～ 経済産業省 平成 23 年度第三次補正予算を中心に ～ 講師：関東経済産業局	内 容		開催時期	平成 24 年 3 月	参加企業	51 社 69 名	セミナー 内容	「新エネルギー・省エネルギー導入支援施策の背景と支援策の 紹介」 講師：関東経済産業局 「E S C O事業の概要について」 講師：一般社団法人 E S C O 推進協議会 会員企業	<p>施設概要：共同住宅 292 戸（京急、大和ハウス工業）、商業。地上 38 階、地下 2 階 所在：横須賀市大滝町 2 丁目 事業主体：大滝町二丁目地区市街地再開発組合 施工：(株)浅沼組 参加組合員：京急電鉄、大和ハウス工業 工事費：95 億円予定。（24 / 12 着工、27 年度竣工予定 融資：当行シローンアレンジャー 42.7 億（うち当行 30 億円参加）</p>
内 容																		
開催時期	平成 23 年 12 月																	
参加企業	24 社 32 名																	
セミナー 内容	「公的補助金支援策の概要について」 ～ 経済産業省 平成 23 年度第三次補正予算を中心に ～ 講師：関東経済産業局																	
内 容																		
開催時期	平成 24 年 3 月																	
参加企業	51 社 69 名																	
セミナー 内容	「新エネルギー・省エネルギー導入支援施策の背景と支援策の 紹介」 講師：関東経済産業局 「E S C O事業の概要について」 講師：一般社団法人 E S C O 推進協議会 会員企業																	
<p>施設概要：共同住宅 292 戸（京急、大和ハウス工業）、商業。地上 38 階、地下 2 階 所在：横須賀市大滝町 2 丁目 事業主体：大滝町二丁目地区市街地再開発組合 施工：(株)浅沼組 参加組合員：京急電鉄、大和ハウス工業 工事費：95 億円予定。（24 / 12 着工、27 年度竣工予定 融資：当行シローンアレンジャー 42.7 億（うち当行 30 億円参加）</p>																		
<p>成果（効果）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商談会開催により、平成 23 年度のビジネスマッチングの件数は、約 1,200 件と大幅に増加。 ・ 知財セミナーおよび補助金セミナーの開催による情報提供活動の成果として、成長分野向け融資実行額は、上期 420 億円、下期 769 億円と順調に増加。 ・ 横須賀の再開発案件の融資は、当行がシンジケートローンのアレンジャーを獲得。また、横須賀地区のサブコン等を施工ゼネコンに対し紹介し、14 社のビジネスマッチングを実施。 																	

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 第四銀行）

タイトル	「だいし観光学校」による県内旅館の活性化支援
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・中越地震からの復興に貢献するため、平成17年に県内観光の活性化支援に取り組んだことを機に、観光活性化支援事業を継続実施。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・22年度までは特定地域を対象とし観光活性化支援事業を実施してきたが、23年度は新潟県内全域の「経営改善や地域活性化に積極的に取り組む旅館」を対象として、23年9月から24年4月まで全7回に亘り、「だいし観光学校」を実施し、17企業が参加。 ・売上増加や着地型観光の普及促進に向け、各分野の専門家を講師として招き、事前課題を課して発表・検討を行う実践的な形式とすることで効果を高めた。 ・内容 第1回「販売促進の基本」 第2回「チラシ・DM等の活用」 第3回「ネットの活用」 第4回「旅館運営の今後」 第5回「日本料理の今後」 第6回「販促活動の結果報告」 第7回「出向体験の結果報告」
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・販売促進やDM活用の講義内容を実践した結果、A社では新しい宿泊プランをホームページで販売し100名超の申込みに繋がった。またB社ではチラシを修正してDMを実施し、高額宿泊プランが前年比3倍になるなどの効果があった。 ・参加企業間で従業員を出向により人材交流することで、他社の接客方法などを学ぶ良い機会となった。

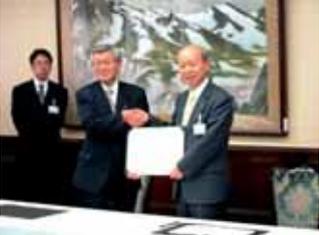
「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 北越銀行）

タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな地域プロジェクトへの参画による地域の面的再生を支援
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済を取り巻く環境が急激に変化するなか、地銀には従来の資金供給者としての役割に加え、お取引先に対する経営支援や地域活性化への積極的な取組みが期待されており、これに応えるべく面的再生への積極的に参画していく。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡地域で“ものづくり拠点の形成”に向けて活動する、NPO法人長岡産業活性化協会NAZEの活動を支援している。 ・同協会の活動の一環である、次世代のリーダーを育成する若手経営者・後継者・経営幹部候補生のための経営塾「NEXT道場」において当行行員が講師を担当し、財務諸表の見方や資金調達のポイントなど経営に必要な財務をテーマとして講義を担当した。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う人材の育成は、地域活性化のために不可欠な課題。当行はその課題解決に向けて活動する「NAZE」の理念に共感し、毎年継続して「NEXT道場」の講師を担当している。 ・当行が担当する財務関連の講義に加え、地元の企業経営者や専門家による経営哲学、マーケティングなどの講義もあり、次世代のリーダー育成に一定の成果があったと考える。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 北陸銀行）

タイトル	富山県との災害時等の応援に関する協定締結と、移動相談車の導入
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時の協力体制を構築し、地域に役立つため ・ お取引先との接点を強化し、金融サービスをより身近なものとするため
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年2月、富山県と災害時等の応援に関する協定を締結し、同時に移動相談車（北陸の地銀で初）の稼働を開始 ・ 平常時は、より多くのお取引先との接点を拡大するため、イベント会場などにおいて、さまざまな相談業務に利用 ・ 災害発生時には、搭載しているATMでの現金払出や、カセット型発電機の炊き出しでの利用、支援物資の輸送車両として利用するなど、富山県との協力体制により、地域のお役に立てるよう、活用していくもの <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>左上：移動相談車の外観 中央上：富山県との災害協定締結式と同時に行われた移動相談車オープニングセレモニー 右上：富山県との災害協定締結式 左下：カセット型発電機 右下：車内ATM</p> </div>
成果（効果）	<p>【相手方にとっての成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動相談車活用による、災害発生時の罹災地支援や復興支援 <p>【当行にとっての成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント会場などでの移動相談車の活用により、より多くのお取引先との接点ならびに金融サービス提供の拡大

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 北陸銀行）

タイトル	寄付講座への講師派遣や共同執筆テキストの出版、次世代経営者養成講座の主催等を通じた地域を担う若い世代への金融教育の普及																																		
動機（経緯）	地域の次世代を担う若い世代への教育は、長期的な視点から地域活性化に資するものであり、継続実施している																																		
取組み内容	<p>【寄付講座への講師派遣、次世代経営者養成講座の主催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校法人、行政機関への寄付講座のほか、若手経営者向けの集中講義を当行主催で実施（H23年度講師派遣件数：延べ170件） <p>H23年度の主な寄付講座・特別講演等</p> <table border="1" data-bbox="443 555 1024 1160"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>タイトル</th> <th>対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23.4～</td> <td>富山大学・「金融機関論」講義</td> <td>大学生</td> </tr> <tr> <td>H23.4～</td> <td>富山大学・「コーポレートファイナンス」講義</td> <td>大学生</td> </tr> <tr> <td>H23.4～</td> <td>富山大学オープンクラス・「MBA市民講座」講義</td> <td>大学生・市民</td> </tr> <tr> <td>H23.5～</td> <td>金沢大学・「21世紀を生きるためのキャリアプラン」講義</td> <td>大学生</td> </tr> <tr> <td>H23.5</td> <td>北日本新聞社・「平成広徳塾」講義</td> <td>社会人</td> </tr> <tr> <td>H23.10～</td> <td>金沢大学・「総合講義（金融機関論）」講義</td> <td>大学生</td> </tr> <tr> <td>H23.11～</td> <td>金沢大学・「ジャーナリズム論」講義</td> <td>大学生</td> </tr> <tr> <td>H24.1～</td> <td>ほくぎんマネジメントスクール「次世代経営者養成講座」開講</td> <td>若手経営者</td> </tr> <tr> <td>H24.2</td> <td>税理士法人主催・「グローバル化する地方経済」講演</td> <td>社会人</td> </tr> <tr> <td>H24.2</td> <td>行政機関のスキルアップ研修に頭取講演実施</td> <td>社会人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(上写真) H23.11 金沢大学「ジャーナリズム論」頭取講義</p> <p>明日の地域を担う若い世代への教育として、高木頭取による『私の新聞の読み方』の寄付講義を実施</p> <p>(下写真) H24.1 ほくぎんマネジメントスクール「次世代経営者養成講座」</p> <p>MBA取得者である行員を中心に講師となり、中小・中堅企業の若手経営者を対象に、経営実務を学ぶための講義を実施（7回シリーズ）</p> <p>【大学との共同執筆テキストの出版】</p> <ul style="list-style-type: none"> H23.4に、包括的連携協力を結んでいる富山大学との共同執筆「実務から学ぶコーポレート・ファイナンス」を出版 <p>記者会見の様子(H23.4)</p>		開始年月	タイトル	対象	H23.4～	富山大学・「金融機関論」講義	大学生	H23.4～	富山大学・「コーポレートファイナンス」講義	大学生	H23.4～	富山大学オープンクラス・「MBA市民講座」講義	大学生・市民	H23.5～	金沢大学・「21世紀を生きるためのキャリアプラン」講義	大学生	H23.5	北日本新聞社・「平成広徳塾」講義	社会人	H23.10～	金沢大学・「総合講義（金融機関論）」講義	大学生	H23.11～	金沢大学・「ジャーナリズム論」講義	大学生	H24.1～	ほくぎんマネジメントスクール「次世代経営者養成講座」開講	若手経営者	H24.2	税理士法人主催・「グローバル化する地方経済」講演	社会人	H24.2	行政機関のスキルアップ研修に頭取講演実施	社会人
開始年月	タイトル	対象																																	
H23.4～	富山大学・「金融機関論」講義	大学生																																	
H23.4～	富山大学・「コーポレートファイナンス」講義	大学生																																	
H23.4～	富山大学オープンクラス・「MBA市民講座」講義	大学生・市民																																	
H23.5～	金沢大学・「21世紀を生きるためのキャリアプラン」講義	大学生																																	
H23.5	北日本新聞社・「平成広徳塾」講義	社会人																																	
H23.10～	金沢大学・「総合講義（金融機関論）」講義	大学生																																	
H23.11～	金沢大学・「ジャーナリズム論」講義	大学生																																	
H24.1～	ほくぎんマネジメントスクール「次世代経営者養成講座」開講	若手経営者																																	
H24.2	税理士法人主催・「グローバル化する地方経済」講演	社会人																																	
H24.2	行政機関のスキルアップ研修に頭取講演実施	社会人																																	
成果（効果）	<p>【相手方にとっての成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い分野に亘る経済・金融知識の習得、体験 <p>【当行にとっての成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 提携を締結した大学等との紐帯強化 																																		

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 富山銀行）

タイトル	新通帳デザインの富山大学生コンペティション実施
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の推進と地域社会の活性化を目的に、富山大学との間で平成 17 年に締結した「包括的連携協力に関する覚書」に基づいた取組み。 ・当行が平成 24 年 5 月に新システムへ移行するのを機に、CS向上を目的として通帳デザインを刷新することとしたが、その図案を地元富山大学生から募集。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・同大学芸術文化学部の学生を対象に募集。 ・下記デザインコンセプトに基づいて募集。 <ul style="list-style-type: none"> 富山銀行らしさのイメージ創出 コーポレートカラーの青色や、歴史的建造物の本店赤レンガ建物に代表される当行イメージ 印象に残るデザイン 企業イメージの斬新で美しい具体化 他金融機関との差別化 携える魅力を重視 顧客の大切な財産を管理するに相応しい、携える大切な物としての魅力
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・21名の学生から24点の応募があり、銀行や大学等の関係者による審査会での選考を経て、グランプリ作品1点、準グランプリ作品2点を選出。 ・グランプリ作品を新通帳デザインとして採用し、平成24年5月の新システム移行に合わせて実用化。

新通帳デザインの富山大学生コンペティション実施

概要

富山大学との間で平成17年に締結した「包括的連携協力に関する覚書」に基づき、同大学芸術文化学部の学生を対象に、新通帳デザインを募集

新デザインの導入趣旨

平成24年5月の新システム移行を機に、CS向上を目的としてデザイン刷新

デザインコンセプト

- ①富山銀行らしさのイメージ創出
- ②印象に残るデザイン
- ③携える魅力を重視

- ・グランプリ作品を新通帳デザインとして採用
- ・システム移行に合わせて実用化



普通預金通帳、新デザイン



コンペティション表彰式の光景

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 福井銀行）

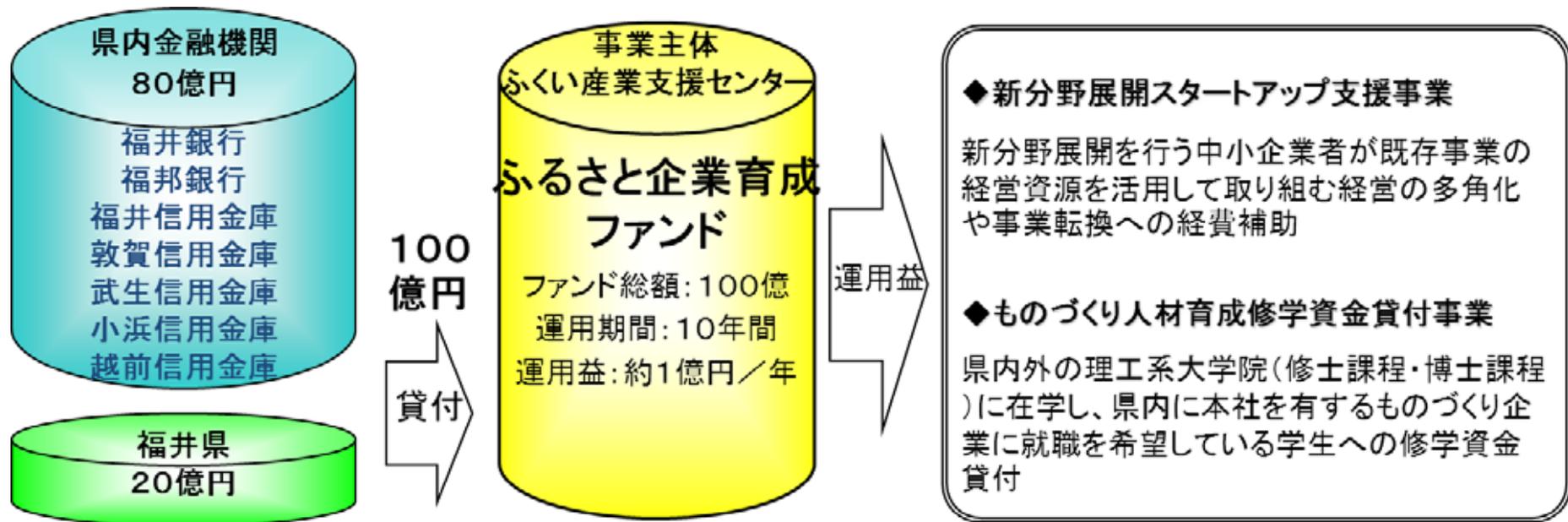
タイトル	福井県新補助事業「新分野展開スタートアップ支援事業」の全行取組
動機（経緯）	福井県においては「福井型未来都市提案企業」創出プロジェクトにおける企業の新分野進出・創業のための資金・設備等に対する支援制度の創設等を行うとして、県内金融機関との協力による「ふるさと企業育成ファンド事業」を創設。当行も地域メインバンクとして当該ファンド事業に賛同し、積極関与する。
取組み内容	<p>1．事業全体への関与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンド総額100億円のうち、45億円を10年間無利子貸付。 ・金融機関では当行のみとなる同ファンド事業従事のための人材（1名）出向。 <p>2．行内の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所・商工会と連携のうえ県内店舗全てにおいて事業展開ニーズを有する企業約100社に当該事業提案。
成果（効果）	<p>2．行内取組の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請総数72件のうち、33件の申請に関与。 ・助成交付決定総数7件のうち、4件が当行推薦。 ・ファンド事業自体は狭き門であったが、助成交付のならなかった先についても個別に事業計画をモニタリング。計画実現に向けた助成金以外の資金調達の提案や翌年度申請再チャレンジに向けた事業計画のブラッシュアップ等に関与、地域密着を図っていった。

ふるさと企業育成ファンド事業

～ 民間金融機関との協力による企業と人を育てる大型ファンド～

県内金融機関と協力して新たなファンドを創設し、県内中小企業の新分野展開や人材育成支援を強化することにより、ふるさと産業の元気再生を図る

< 県内金融機関と協力して創設する地域独自のファンド >



「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 大垣共立銀行）

タイトル	航空機産業への参入支援
動機（経緯）	今後の成長が期待される航空機産業への地元中小企業の参入を支援するもの
取組み内容	<p>「航空機産業セミナー」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回：平成23年9月21日（水） ・ 第5回：平成24年3月6日（火） <p>「航空機産業参入セミナー」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強い参入意向を持つ企業に対しより具体的なセミナー開催
成果（効果）	継続支援中

主催 (株)大垣共立銀行 (株)共立総合研究所

受 講
無 料

第4回 航空機産業セミナー

平成23年9月21日(水) 午後1時30分～午後4時30分 (受付開始 午後1時)
名古屋銀行協会5階 大ホール

航空機産業に携わる専門家が最新の業界動向や航空機部材品の生産技術などについて解説します。
航空機産業への参入に関心をお持ちの企業経営者や幹部の皆様のご参加をお待ちしております。

【内 容】

第1部 午後1時30分～午後2時20分

「パリ・エアショー2011 ～航空機産業の最新動向～」

社団法人中部航空宇宙技術センター

地域連携マネージャー 田島 暎久 氏 (技術士〔航空・宇宙〕 日本技術士会員)

第2部 午後2時35分～午後3時25分

「航空機に適用される先端材料とその加工技術について

～現状と今後の展望～」

富士重工業株式会社 航空宇宙カンパニー研究部 主査 中島 正憲 氏

第3部 午後3時40分～午後4時30分

「航空機装備品生産の現状とサプライチェーンのあるべき姿」

ナブテスコ株式会社 航空宇宙カンパニー 岐阜工場

サプライチェーンマネジメント(SCM)部長 清水 功 氏

【会 場】 名古屋銀行協会 住所:名古屋市中区丸の内2-4-2

地下鉄桜通線 丸の内駅4番出口より徒歩6分、地下鉄名城線 市役所駅4番出口より徒歩8分

【受講料】 無 料

【定 員】 200名 (先着順)

【お申込締切日】 平成23年9月12日(月)

【お問い合わせ先】 株式会社大垣共立銀行 支店部情報渉外課 下條・田辺・中村 TEL 0584-74-2196

受講申込書

フリガナ 貴社名	(取引店: 支店)	
フリガナ ご参加者名	様	様
ご連絡先	TEL	FAX

受講希望の方は、本申込書に必要事項を記入の上、最寄りの大垣共立銀行(本支店)にご持参いただくか、FAXにて下記までお申し込み下さい。

ご記入いただきました個人情報は本セミナーの受講管理の目的のみに使用します。

株式会社大垣共立銀行 支店部情報渉外課

FAX 0584 82 2083

アクセスマップ

駐車場の不足が予想されるため、公共交通機関をご利用ください。



主催 大垣共立銀行 共催 共立総合研究所

第5回航空機産業セミナー

平成 24 年 3 月 6 日 (火) 13 時 30 分 ~ 16 時 00 分

(受付開始 13 時)

名古屋銀行協会 5 階 大ホール

航空機産業に携わる専門家が航空機部材品の生産技術や業界動向などについて解説します。
航空機産業への参入に関心をお持ちの企業経営者や幹部の皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

第 1 部 13 時 30 分 ~ 14 時 30 分

テーマ 「島津製作所 航空機器事業部の紹介
並びに民航部品のモノ作りについて」

講師 株式会社島津製作所 航空機器事業部 航空機器工場
民間航空機担当部長 池田 茂 氏

第 2 部 14 時 40 分 ~ 15 時 40 分

テーマ 「多摩川精機における航空機事業並びに主要製品の紹介」

講師 多摩川精機株式会社 常務取締役 熊谷 秀夫 氏

第 3 部 15 時 45 分 ~ 16 時 00 分

講師を交えた懇親会

会 場 名古屋銀行協会 住所：名古屋市中区丸の内 2-4-2

交通：地下鉄桜通線 丸の内駅 4 番出口から徒歩 6 分 地下鉄名城線 市役所駅 4 番出口より徒歩 8 分

受講料 無 料

定 員 200 名 (先着順)

お申込み締切日 平成 24 年 2 月 24 日 (金)

主催：大垣共立銀行 共催：共立総合研究所

お問い合わせ先 大垣共立銀行 支店部情報渉外課

担当：下條 田辺 中村 TEL：0584-74-2196

受講申込書

フリガナ 貴社名	(取引店: _____ 支店)	
ご参加者名	(役職名 _____)	様
ご連絡先	TEL _____	FAX _____

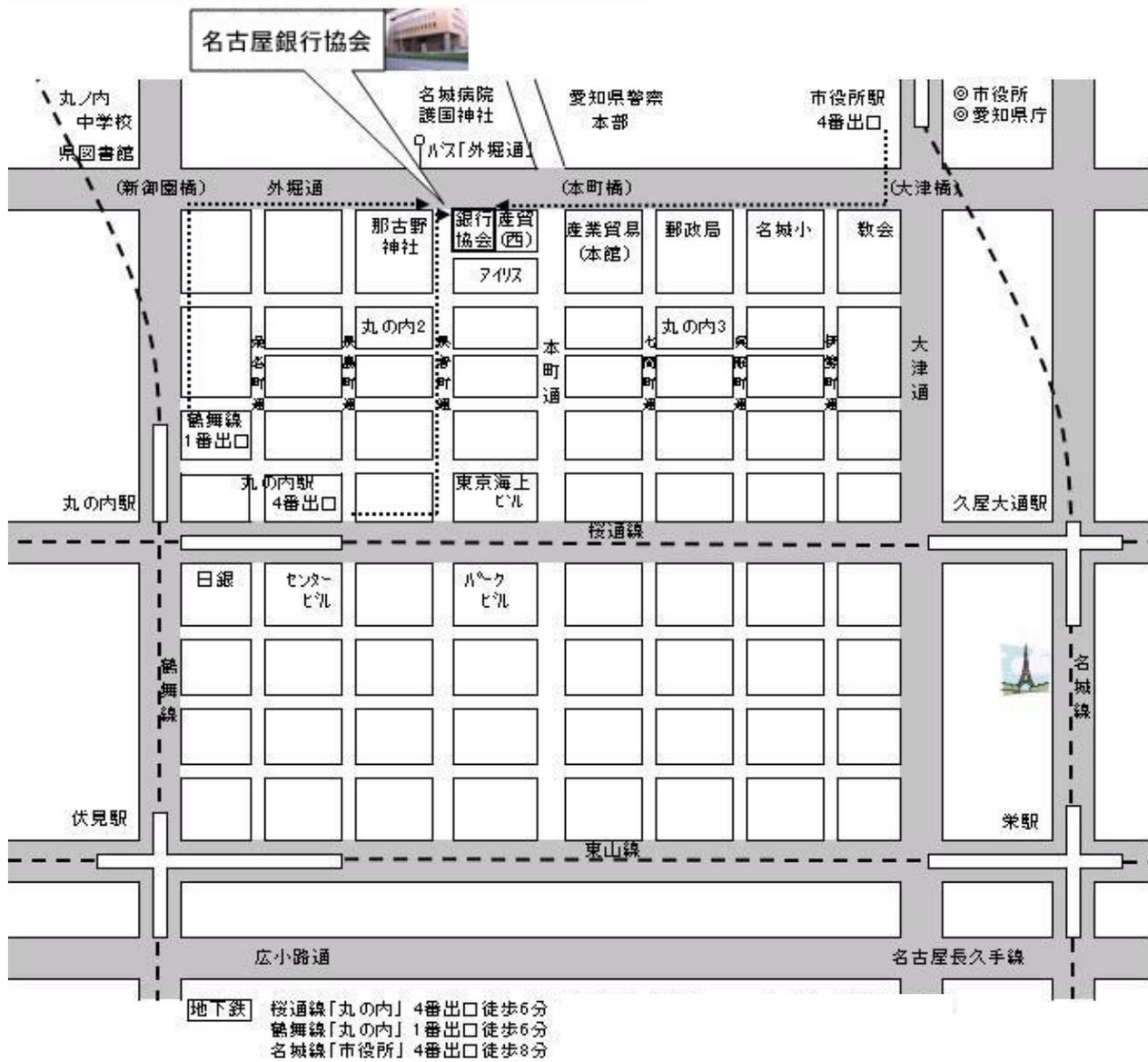
受講希望の方は、本申込書に必要事項を記入の上、最寄りの大垣共立銀行（本支店）にご持参いただくか、
FAX にて下記までお申込み下さい。

ご記入いただきました個人情報には本セミナーの受講管理の目的のみに使用いたします。

FAX 送信先：大垣共立銀行 支店部情報渉外課 FAX 番号 0584-82-2083

アクセスマップ

駐車場の不足が予想されるため、公共交通機関をご利用ください。



「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 大垣共立銀行）

タイトル	地方銀行連携『地方からの贈り物』プロジェクト
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・地方銀行取引先企業には特産品の生産業者が数多くあり、地方銀行による販路拡大等の支援策として、通販カタログを利用したスキームを検討。 ・当行を含む地方銀行6行とリッキービジネスソリューション(株)（通販カタログ運営会社）が共同で、通販カタログにより販路拡大等を支援する「地方銀行連携『地方からの贈り物』プロジェクト」を発足。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト参加銀行取引先企業の特産品を集めた通販カタログを制作するべく、参加銀行が取引先企業を通販カタログ運営会社に紹介。 ・上記紹介にて制作された通販カタログ「地方からの贈り物 うまいものシリーズ」を参加銀行の営業店舗内に設置。
成果（効果）	<p>本プロジェクトにより以下の通販カタログを制作し、参加銀行へ設置。</p> <p>通販カタログ「地方からの贈り物 うまいものシリーズ Vol.1」 期間:H22.11.29～H23.5.20 参加行:6行 掲載商品数:231</p> <p>通販カタログ「地方からの贈り物 うまいものシリーズ Vol.2」 期間:H23.5.23～H23.11.30 参加行:7行 掲載商品数:168</p> <p>通販カタログ「地方からの贈り物 うまいものシリーズ Vol.3」 期間:H23.11.28～H24.5.31 参加行:10行 掲載商品数:262</p>

GIFT from the locality

地方からの贈り物

うまいものシリーズ vol.1

申込期間
2010年11月29日
↓
2011年 5月20日

—プロジェクト参加行—
★大垣共立銀行
北海道銀行
荘内銀行
北陸銀行
山口銀行
もみじ銀行

創刊号

地方銀行連携「地方からの贈り物」プロジェクト。
全国各地より厳選した旬の産直・銘品の数々。
直送便でお届けいたします。

RBS ニューリーダービジネスソリューション株式会社

GIFT from the locality

地方からの贈り物

うまいものシリーズ vol.2

申込期間
2011年 5月23日
↓
2011年11月30日

プロジェクト参加行
北海道銀行
みちのく銀行
荘内銀行
北陸銀行
★大垣共立銀行
山口銀行
もみじ銀行

地方銀行連携
「地方からの贈り物」プロジェクト。
全国各地より厳選した旬の産直・銘品の数々。
直送便でお届けいたします。

RBS ニューリーダービジネスソリューション株式会社

GIFT from the locality

地方からの贈り物

vol.3

申込期間
2011年11月28日
↓
2012年 5月31日

東京農業大学名誉教授
小泉武夫先生ご推薦

プロジェクト参加行
北海銀行
みちのく銀行
荘内銀行
東邦銀行
群馬銀行
北陸銀行
★大垣共立銀行
山口銀行
北九州銀行
もみじ銀行

地方銀行連携
「地方からの贈り物」プロジェクト。
全国各地より厳選した旬の産直・銘品の数々。
直送便でお届けいたします。

RBS ニューリーダービジネスソリューション株式会社

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 大垣共立銀行）

タイトル	障がい者雇用 ～新たな取り組みによる地域社会への更なる貢献～
動機（経緯）	地域金融機関の社会的使命として、更なる障がい者の雇用創出・拡大に取り組み、障がい者の自立支援と地域社会への貢献に資する。
取組み内容	<ol style="list-style-type: none"> 1．特別支援学校生徒の就労支援 <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ（企業研修）の受入 受入を通じ、大垣共立銀行と特別支援学校が一体となり、障がいがあっても、地域で働き、地域に貢献することができる人材を育成。 2．特別支援学校新卒者の採用 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年4月に初めて特別支援学校新卒者を採用。今後も採用を継続。 3．障がい者が働くための専用事業所「OKB工房」を開設 <ul style="list-style-type: none"> ・働き甲斐のある職務の開発や設備整備等、障がい者の就労環境を整備。 ・地元商店街の空テナントを活用することにより、地域の活性化を図る。
成果（効果）	<p>【相手方にとっての成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の雇用創出・拡大 ・地元商店街の活性化 （商店街一角の空テナントを有効活用し「OKB工房」を運営） <p>【当行（金庫・組合）にとっての成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の自立支援 ・地域社会への貢献

『OKB工房』の詳細

1. 『OKB工房』とは

障がい者が専門的に就労する事業所 = 『OKB工房』です。

<コンセプト>

- ・障がい者が大垣共立銀行の一員として誇りと働き甲斐を持って就労し、「お客様のため」「銀行のため」に営業店ロビー装飾品やノベルティ等の創作業務および定型的な事務業務を行います。
- ・地域貢献の拠点として、障がい者の自立支援や雇用の創出・拡大、地域経済の活性化を目指します。

2. 場 所

大垣郭町商店街の一角に開設（地元商店街の活性化）

3. 業務内容

営業店ロビー装飾品やノベルティ等の創作

季節感を演出する装飾品（ 1 ）やノベルティ（ 2 ）等を創作し、営業店ロビーの装飾に活用してもらう等、CS（お客様満足）向上や効率化の一助とします。

- （ 1 ）七夕飾り、季節の花、お客様用うちわ、クリスマス飾り など、年間を通じて装飾品の制作を行い、営業店に提供。
- （ 2 ）創作品には『OKB工房』で作成したことがわかるよう名称・照会文を記載。
なお、営業店がお客様用粗品として活用する『OKB工房』製作鉛筆を新規制定し、7月から封入作業をスタート。

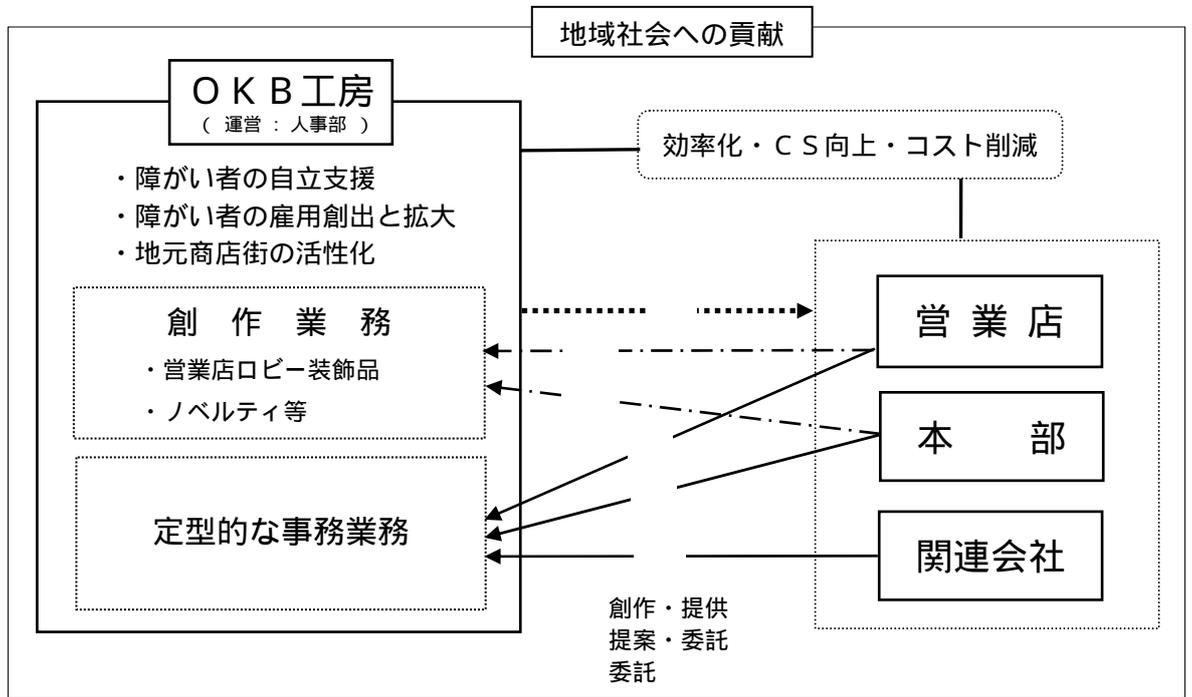
定型的な事務業務

営業店、本部、関連会社の定型的な事務作業の一部を請け負い、事務効率化やコスト削減の一助とします。

<実施している事務業務>

- ・各種ゴム印押し
- ・各種ポスター巻き
- ・各種シール貼付
- ・書類の三つ折作業
- ・書類の仕分け、梱包
- ・各種封入作業
- ・書類の帳合
- など

4. イメージ



5. その他

・インターンシップの受入

「働きたい! 応援団 ぎふ」のサポーター企業として特別支援学校生徒のインターンシップを受け入れ、OKB工房において各種事務業務及び創作業務を体験してもらっています。

以上

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 十六銀行）

タイトル	産官学連携事業による地域貢献活動
動機（経緯）	産学連携協定を締結している大学・高専を中心に、それらの大学の特徴を活かした教育イベントの開催を通して、知的財産の橋渡しや地域貢献に繋がる活動を推進する。
取組み内容	<p>（平成22年12月）岐阜高専との連携事業 「ふれあいエコサイエンス広場 in モレラ岐阜（本巣市）」 小学生親子を対象にLED や風力発電を利用した工作を通して、楽しみながら環境について学べるイベントを開催した。</p> <p>（平成22年7月）中部学院大学との連携事業 「かがくさんすうアカデミー4（各務原市）」 小学生たちが学生の手ほどきで工作などを体験し、理科離れが危惧される子どもたちに、学ぶ楽しさを知ってもらおうと、親子で参加できるイベントを開催した。</p>
成果（効果）	<p>【相手方にとっての成果】 地域の将来を担う子どもたちに、学ぶ楽しさを知る「場」を提供した。</p> <p>【当行にとっての成果】 地域貢献活動の一環としてイベントを企画開催した。</p>

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 十六銀行）

タイトル	産官学連携のコーディネート
動機（経緯）	地元企業と大学・高専等が技術相談や共同研究などで実施することで、地域経済活性化に繋がるような両者の橋渡し役として活動する。
取組み内容	<p>新規事業立ち上げについて模索している等の経営課題を抱える地域の中小企業に対し、中小企業支援施策（特に、農商工連携、地域資源活用プログラム、新連携支援制度、経営革新計画）を紹介し、各種支援機関と協力しながらその活用促進に努めている。</p> <p>また、地域の中小製造業者が抱える技術課題については、相談内容に応じて、産学連携協定を締結する9大学1高専、あるいは国・県などが設置する各種研究機関に打診し、適切な専門家のアドバイスを仰いだり、大学研究室との共同研究に結びつくようコーディネートに努めている。</p>
成果（効果）	<p>【相手方にとっての成果】</p> <p>認定を受けることが企業のイメージアップにつながること 企業単独では解決できない技術課題が解決され、また大学との共同研究により製品開発が促進されること等</p> <p>【当行にとっての成果】</p> <p>新たな資金需要に伴う融資扱い、信用保証協会保証付融資の取扱い等 目先の事業性貸出に留まらない、金融サービスの提供ができること等</p>

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 静岡銀行）

タイトル	中心市街地活性化（面的再生）支援への取組み
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> ・県内主要都市A市の中心市街地の商店街は、買物客等の通行量の減少に加え、周辺の再開発等に伴う大型店出店などにより、業績が低迷する商店が増えていたことから、個別の商店毎のみならず、その属する商店街および中心市街地全体の活性化に向けた取組みの重要性が従来以上に高まっていた。
取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化策などをA市に共同で提言すべく設置した、当行を含む地元金融機関（5行庫）等で構成する「合同連絡会議」において検討を重ね、「中心市街地の活性化に向けた検討結果」（以下、検討結果）を取りまとめた。 ・検討結果を踏まえたモデル事業として、中心市街地のうちB商店街について、活性化事業に着手。当行から講師を紹介し、商店街活性化セミナーを開催。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年7月、検討結果をA市市長に提出。 ・平成24年3月には、検討結果に盛り込まれた活性化策の立案・実施に向け、ワーキンググループを発足。ワーキンググループは、今後、経営力アップ・後継者育成、個別商店街の活性化などの分科会を設置する予定。 ・B商店街で実施した商店街活性化セミナーに参加した地元商店主などでは、主体的に活性化事業を推進していく機運が高まり、独自に活性化に向けた会議体を立ち上げた。

「地域密着型金融」に関する取組み事例（23年4月～24年3月）

（銀行名 百五銀行）

タイトル	産学官連携で取組む企業向け技術相談会 および中小企業支援ネットワーク強化事業の有効活用による新商品開発支援
動機（経緯）	<ul style="list-style-type: none"> 食品製造・販売業を営むA社は、新商品開発における加工方法について課題を抱えていた。 当行担当者が、打開策の一つとして、「当行」・「大学」・「市町」・「支援機関」で開催している技術相談会を紹介した。 技術相談会を利用した結果、新商品（2種類）の開発が実現した。
取組み内容	<p>【技術相談会】（事前予約制）</p> <p>開催回数：23年度 計6回（3ヶ所・各2回）</p> <p>対象：研究開発や技術開発に関して課題を抱えるお取引先</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学等のコーディネーターから、技術面のアドバイスを実施した。 さらに、中部経済産業局の「中小企業支援ネットワーク強化事業」を活用した製造工程の指導と、地域農産物を活用した新商品開発における助成金制度の紹介などの支援を実施した。
成果（効果）	<ul style="list-style-type: none"> A社は、2種類の新商品を開発。また、助成金を平成24年5月に申請予定。 今後は、域内農業者が生産する地域資源を活用した、さらなる新商品の開発を地域ともに取り組むことを検討している。 <p>（地産地消・地域活性化への取組による地元農業者等の信頼度向上）</p> <ul style="list-style-type: none"> 当行においては、一つの相談から、様々な支援（商品開発課題解決・助成金支援・製造工程の指導）に結びつけることができたことから、信頼度の向上やリレーションの強化につながった。

お取引先さまへ

三重大学・三重TLO・百五銀行 技術相談キャラバンin津市

三重大学・三重TLO・百五銀行による技術相談会を開催します。貴社の研究開発や技術開発に関しまして大学に相談したい課題がございましたら裏面の「技術相談シート」にご記入いただき、お近くの百五銀行の取引店担当者、もしくは津市（商工観光部産業政策振興課）、三重県信用保証協会（本店営業部創業・企業支援課）までお申込みください。

「開発に行き詰っているが何か方法がないか」

「専門知識をもったパートナーが欲しい」

「製品の性能・機能を向上させたい」 など

詳しくは、三重大学の研究シーズ集は <http://www.mie-u.ac.jp/>、三重TLOは <http://www.mie-tlo.co.jp/> のホームページをご覧ください。

三重TLOは三重大学とともに研究開発支援事業を行っています。

～ 下記要領で技術相談会を開催いたします ～

主催	三重大学 ・ 三重TLO ・ 百五銀行
共催	津市 ・ 三重県信用保証協会
開催日	第1回平成23年10月4日（火） 第2回平成24年1月19日（木）
時間	10時～16時（相談は予約制で1企業約30分となります。）
場所	津市西丸之内23-1 津リージョンプラザ（津市役所隣） 2階 第1会議室 059-229-3300
申込締切	第1回締切平成23年9月20日（火） 第2回締切平成24年1月10日（火）
対応者	三重大学社会連携研究センターおよび三重TLOのコーディネーター
参加費用	無料 内容によってはご相談に応じられない場合があります。 その際は技術相談会開催日までに連絡させていただきます。

相談会に関する詳細は百五銀行の取引店担当者までお問い合わせください。

裏面の「技術相談シート」にご記入の上、お申込みください。



株式会社
三重ティーエルオー



お申込者	貴社名			
	部署名		役職	
	ご担当者名			
	ご住所	〒		
	TEL		FAX	
	e-mail		URL	
	ご希望日	10月 4日(火) 午前 1月19日(木) 午前		10月 4日(火) 午後 1月19日(木) 午後
<p>いずれかにチェックをお願いします。(複数可)</p> <p>日程、相談時間帯、相談対応等については、改めてご連絡させていただきます。</p>				
<p>相談事項： 1 技術につき1相談となるよう具体的にご記入ください。 三重大学および三重 TLO のコーディネーターが対応します。</p> <p>注意事項： 技術相談を中心とし、技術から離れた相談には応じられない場合があります。 新製品、新事業に対しては、立ち上げの可能のあるものを対象とします。 アイデアのみのもや実現不可能と考えられるもの、具体性がなく研究要素のないものは対象外となります。 お申込者様の個人情報を含む技術情報は三重大学・三重 TLO・百五銀行において技術相談に必要な範囲でのみ使用し、他の目的には利用いたしません。</p>				
百五銀行・担当者記入欄				

営業店
津市・三重県信用保証協会

営業渉外部 地域貢献課(コピーを送付、原本はお申込者保管)
取扱店

みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金募集のご案内

平成24年度

みえ地域コミュニティ 応援ファンド

地域課題解決型

地域資源活用型

助成金

募集
期間

【第1回】平成24年4月9日(月)～平成24年5月18日(金)17時まで

【第2回】平成24年9月24日(月)～平成24年10月26日(金)17時まで

地域の賑わいを
あなたのアイデアで
～暮らし作りはビジネス創り～



公益財団法人 三重県産業支援センター

〒514-0004 三重県津市栄町1丁目891 (三重県合同ビル5階)

TEL : 059-228-3585 FAX : 059-228-3800

みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金 URL <http://www.miesc.or.jp/cb-fund/>

みえ地域コミュニティ応援ファンド

助成金交付事業募集案内

(地域資源活用型)
(地域課題解決型)

「みえ地域コミュニティ応援ファンド」は、多様な主体が、新しい時代の担い手として、地域の発想や工夫による特色あるビジネスを創出することを支援するものです。

この応援ファンドの活用による「みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金交付事業」は、県内の各地域において新たな「地域資源を活用するビジネス」や「地域課題を解決するビジネス」を創出していくために必要な、初期段階の必要経費に対して資金面から支援します。

1

募集対象者

次の者を対象とします。

- (1) 創業者
- (2) 新事業を行おうとする中小企業者
- (3) NPOや大学等の中小企業以外で新事業を行おうとする者

※ (3) については助成総額の3割未満の範囲で対応します。

注1：創業者とは、これから創業もしくは会社を設立する者で、事業実績報告を提出するまでに手続きを済ませることとして募集対象者となります。

注2：新事業とは、以下のことをさします。

- 新商品の開発又は生産
- サービスの新たな提供方式の導入
- 新サービスの開発又は提供
- 上記の組合せ、その他の新しい知恵と工夫
- 商品の新たな生産又は販売方式の導入

注3：中小企業者とは、「中小企業基本法」第2条に規定する中小企業者とします。

注4：NPOとは、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した団体とします。

注5：上記の要件を満たす者で構成される「有限責任事業組合に関する法律」第2条に規定する有限責任事業組合が申請する場合は、当該組合員の肩書き付き名義で申請することにより募集対象者となります。

注6：過去に同一の事業で助成対象となった事業者は、助成対象になることはできません。

2

助成対象事業

地域の多様な主体によって、地域の特性を活かして実施される次に掲げるビジネスとします。

(1) 地域資源活用型ビジネス

地域の多様な主体によって実施される地域特有の資源を有効に活用した取組を図る地域資源活用型の事業。

ア. 中小企業地域資源活用促進法（以下「地域資源法」という。）に基づき、県が指定した特定地域資源を活用した取組による商品づくりやサービスの提供。

※県が指定した地域資源については当センターの応援ファンド助成事業のホームページのリンクを利用するか、直接下記のURLでご覧いただけます。

<http://www.pref.mie.lg.jp/KAGICHI/HP/chikisigen182.pdf>

イ. 知名度は低いものの、地域の特徴的な農林水産品、加工技術や観光資源で、新たな価値を見だし、今後の地域資源法による指定の可能性のある地域資源を活用した商品づくりやサービスの提供。

(2) 地域課題解決型ビジネス

地域の課題を解決するための事業を、新たに地域の特性を生かし、ビジネスの手法によって取り組む事業。

3

助成率等

助成率は、助成対象経費の2/3以内とします。ただし、支出に伴う消費税及び地方消費税は助成の対象となりません。

なお、助成額は200万円を上限とします。また、助成事業の効果的な実施の観点から最低助成額を50万円とします。

4

助成期間

助成事業の対象期間は、原則として助成金の交付決定のあった年度とします。ただし、事業計画においてやむを得ず複数年度の事業計画となるものについては、交付決定のあった日から1年以内を助成期間とすることができます。

5

助成対象となる経費

当該助成事業を適切に実施するために必要な経費であって、次に掲げるものとします。

- (1) 委員、講師等外部専門家に対する謝金
- (2) 委員、講師等外部専門家又は事業実施に必要な役職員の旅費
- (3) 会議費、会場・事務所借用料、資料・原材料購入費、印刷製本費、通信運搬費、広告宣伝費、備品購入費、機器等借損料、筆耕翻訳料、消耗品費、雑役務費等の事業実施にかかる事業経費
- (4) 当該事業に係るマーケティング調査等の委託費（その事業の全てを委託するものを除く）

※この応援ファンド助成金事業はソフトを中心とした事業が対象です。ハード（機械設備等購入）を中心とした事業ではありません。また、事業を開始する初期段階（準備・開発・周知費用等）の経費を対象としていることから、販売、サービスの提供にかかる経費については対象外となります。

6

募集方法

みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金交付事業実施計画書（以下、計画書という。）に必要事項をご記入のうえ、下記まで郵送または直接ご持参ください。

計画書は当センターのホームページからダウンロードしてご利用下さい。

URL : <http://www.miesc.or.jp/cb-fund/>

提出された書類は返却いたしませんので、必ず控え（コピー）をお取り下さい。尚、提出時は、正本1部と副本（写し）2部を提出お願いします。

7

審査項目

審査会では、次に掲げる審査項目等を審査します。

- ア. 事業実施による地域課題の解決や地域資源の活用による地域への貢献度
- イ. **地域資源活用型**: 事業の新規性、市場性、成長性、実現可能性
地域課題解決型: 事業の市場性、実現可能性、社会性
- ウ. 今後5カ年間の事業収支予測による経営性、事業の継続意欲

8

事業の流れ



1 募集期間 年に2回の募集を行います。

第1回：平成24年4月9日(月)から平成24年5月18日(金)17時まで
第2回：平成24年9月24日(月)から平成23年10月26日(金)17時まで

2 審査方法

提出された計画書は予備審査(事務的審査)の後、有識者等で構成する審査会によって、一次審査(必要に応じてヒアリング等を実施する場合がございます)を行い、通過した申請者を対象に二次審査(プレゼンテーション審査)を実施し、公益財団法人三重県産業支援センターが交付先を決定します。

なお、審査項目については、申請される「地域資源活用型」「地域課題解決型」の部門で違いますのでご注意ください。

3 審査スケジュール

みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金(地域資源活用型・地域課題解決型)

第1回 一次審査：平成24年5月下旬～6月中旬頃
二次審査：平成24年6月下旬～7月下旬頃

第2回 一次審査：平成24年11月上旬～11月下旬頃
二次審査：平成24年12月上旬～12月下旬頃

※上記のスケジュールは、審査の都合上、変更する場合があります。

4 説明会等の開催

県内各地区で助成金説明会と個別相談会(事業計画書の相談)等の開催を予定しています。

詳細については、公益財団法人三重県産業支援センターの「みえ地域コミュニティ応援ファンド助成金」のホームページにて閲覧が可能です。

5 この事業は下記企業等の協力によりファンドを組成し、その運用益で助成するものです。

北伊勢上野信用金庫、紀北信用金庫、桑名信用金庫、株式会社第三銀行、株式会社百五銀行、株式会社三重銀行、三重県信用農業協同組合連合会、三重信用金庫、独立行政法人中小企業基盤整備機構、三重県

6 注意事項

- 応募をされる方は、申請される「地域資源活用型」「地域課題解決型」それぞれ別々の助成金交付要領がありますので、熟読のうえ申請いただきますようお願いいたします。
- 募集にあたって作成する計画書は、「地域資源活用型」「地域課題解決型」それぞれ別々の計画書となっていますのでご注意ください。
- 過去に同一の事業で助成対象となった事業者は、助成対象になることはできませんのでご注意ください。
- 助成金交付については、審査会での審査結果等により、助成申請額を減額して交付する可能性があります。
- 助成金を受けようとする者が、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77条)第2条第2号に該当する暴力団または暴力団若しくは暴力団員の統制の下にある団体及びその構成員と認められる場合は対象となりません。
- 助成金を受ける内容が、風俗営業等の規則及び業務の適正化等に関する法律(昭和23年法律第122号)による規制の対象とされている業種、その他公序良俗に反するものであると認められる場合は対象となりません。
- 助成事業者、代表者、役員、その他業務に関わる従業員がその助成事業に関し、刑法等法令又は条例、規則に違反する行為を行った場合は対象となりません。
- 助成先として決定された事例について、支援先の了解のもとにインターネット等を活用して広く情報提供を行い、各事業の啓発に努めさせていただきます。
- 助成先として決定後において、虚偽の事実等が判明した場合は、助成先としての取り消しや助成金の返還を命じることがあります。
- 助成金の交付は、原則事業完了後になりますので、助成事業期間中に必要な資金は、各社で一時的にご負担ください。

問い合わせ・計画書提出先

公益財団法人 三重県産業支援センター 地域産業創造課

〒514-0004 三重県津市栄町1丁目891 三重県合同ビル5階

TEL: 059-228-3585 FAX: 059-228-3800

E-mail: tisansou@miesc.or.jp

URL: <http://www.miesc.or.jp/cb-fund/>

